

**2021年度  
大学院スポーツ健康学研究科  
講義概要 (シラバス)**



**法政大学**

# 科目一覽

【発行日：2021/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基礎科目 【S5010】 研究デザイン・フィロソフィー [永木 耕介、井上 尊寛、伊藤 真紀、鬼頭 英明、安藤 正志、泉 重樹、瀬戸 宏明、平野 裕一、木下 訓光、NEMES ROLAND JANOS、山本 浩、荻部 俊二、吉田 政幸、高見 京太] 春学期授業/Spring	1
基礎科目 【S5020】 スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学) [島本 好平、中澤 史] 春学期授業/Spring	3
基礎科目 【S5030】 スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学) [木下 訓光、瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	4
基礎科目 【S5040】 スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学) [伊藤 真紀、井上 尊寛、山本 浩] 秋学期授業/Fall	6
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6010】 公衆衛生学特論 [北垣 邦彦] 秋学期授業/Fall	7
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6020】 健康体力学特論 [林 容市] 春学期授業/Spring	8
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6030】 健康心理学特論 [島本 好平] 秋学期授業/Fall	9
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6040】 スポーツ栄養学特論 [小清水 孝子] 秋学期授業/Fall	10
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6050】 運動器疾患特論 [安藤 正志] 秋学期授業/Fall	11
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6100】 運動器疾患特論予防と対処特論 [安藤 正志] 秋学期授業/Fall	12
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6060】 学校保健学特論 [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	13
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6070】 体力・機能測定評価演習 [林 容市] 秋学期授業/Fall	14
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6080】 運動疫学演習 [笹井 浩行] 春学期授業/Spring	15
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S6090】 スポーツマネジメント特論 [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	16
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7020】 スポーツ産業学特論 [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	17
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7030】 スポーツ健康政策学特論 [海老島 均] 秋学期授業/Fall	18
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7040】 スポーツジャーナリズム特論 [山本 浩] 秋学期授業/Fall	19
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7050】 スポーツメディア特論 [赤堀 宏幸、小池 隆俊] 春学期授業/Spring	20
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7100】 スポーツ組織構造特論 [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	21
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7070】 スポーツ消費者行動特論 [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	22
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7080】 スポーツフィールドスタディー演習 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	23
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7090】 スポーツマーケティングリサーチ演習 [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	24
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8010】 スポーツコーチング学特論 [荻部 俊二] 春学期授業/Spring	25
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8020】 スポーツ運動学特論 [平野 裕一] 春学期授業/Spring	26
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8030】 スポーツバイオメカニクス特論 [平野 裕一] 秋学期授業/Fall	26
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8040】 スポーツトレーニング学特論 [NEMES ROLAND JANOS] 秋学期授業/Fall	28
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8050】 発育発達学特論 [高見 京太] 秋学期授業/Fall	29
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8060】 スポーツ教育学特論 [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	30
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8070】 スポーツメンタルトレーニング演習 [中澤 史] 秋学期授業/Fall	31
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8090】 アスレティックトレーニング特別演習 [泉 重樹] 春学期授業/Spring	32
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8100】 保健体育科教育法特別演習 [鬼頭 英明、永木 耕介] 秋学期授業/Fall	33
研究指導 【S9011】 スポーツ健康学演習Ⅰ [泉 重樹] 春学期授業/Spring	34
研究指導 【S9012】 スポーツ健康学演習Ⅰ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	34
研究指導 【S9014】 スポーツ健康学演習Ⅰ [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	35
研究指導 【S9115】 スポーツ健康学演習Ⅱ [木下 訓光] 春学期授業/Spring	36
研究指導 【S9019】 スポーツ健康学演習Ⅰ [平野 裕一] 春学期授業/Spring	38
研究指導 【S9021】 スポーツ健康学演習Ⅰ [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	39
研究指導 【S9111】 スポーツ健康学演習Ⅱ [泉 重樹] 秋学期授業/Fall	40
研究指導 【S9112】 スポーツ健康学演習Ⅱ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	41
研究指導 【S9114】 スポーツ健康学演習Ⅱ [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	42
研究指導 【S9015】 スポーツ健康学演習Ⅰ [木下 訓光] 春学期授業/Spring	43
研究指導 【S9119】 スポーツ健康学演習Ⅱ [平野 裕一] 秋学期授業/Fall	44
研究指導 【S9121】 スポーツ健康学演習Ⅱ [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	46
研究指導 【S9210】 スポーツ健康学演習Ⅲ [安藤 正志] 春学期授業/Spring	47
研究指導 【S9211】 スポーツ健康学演習Ⅲ [泉 重樹] 春学期授業/Spring	48
研究指導 【S9212】 スポーツ健康学演習Ⅲ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	49
研究指導 【S9216】 スポーツ健康学演習Ⅲ [高見 京太] 春学期授業/Spring	50
研究指導 【S9219】 スポーツ健康学演習Ⅲ [平野 裕一] 春学期授業/Spring	51
研究指導 【S9221】 スポーツ健康学演習Ⅲ [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	52
研究指導 【S9310】 スポーツ健康学演習Ⅳ [安藤 正志] 秋学期授業/Fall	53

研究指導【S9311】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[泉 重樹]	秋学期授業/Fall	53
研究指導【S9312】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[井上 尊寛]	秋学期授業/Fall	54
研究指導【S9316】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[高見 京太]	秋学期授業/Fall	55
研究指導【S9319】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[平野 裕一]	秋学期授業/Fall	56
研究指導【S9321】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[吉田 政幸]	秋学期授業/Fall	58

HSS50011

## 研究デザイン・フィロソフィー

永木 耕介、井上 尊寛、伊藤 真紀、鬼頭 英明、安藤 正志、泉 重樹、瀬戸 宏明、平野 裕一、木下 訓光、NEMES ROLAND JANOS、山本 浩、苅部 俊二、吉田 政幸、高見 京太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3, 木 4/Thu.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を研究するためには、倫理面をはじめとする基礎的で幅広い知識と技能、およびそれらを計画立てて使う方法を知ることが必要となる。そのため、本授業では、複数の専任教員が各々独自の視点から研究の在り方（フィロソフィー）と設計の仕方（デザイン）について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

受講生が、スポーツ健康学を構成するヘルス系、コーチング系、マネジメント系の各領域における研究の在り方および計画の立て方を知り、自身の研究の基礎として役立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義は、スポーツ健康学研究科の複数の専任教員が担当する。各教員は自身の専門分野を切り口に、研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	大学院での研究と学び スポーツ健康学の理解と研究課題（スポーツコーチング領域）	論文を作成するにあたっての心構えと、2 年間の研究活動を通して身につけるべき研究の方法と考え方について総論的に理解する。（永木耕介・1 回）
2 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマーケティング）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマーケティングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（井上尊寛・1 回）
3 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツ組織論）	スポーツ健康学分野の特にスポーツ組織論に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（伊藤真紀・1 回）
4 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・学校保健）	スポーツ健康学分野の特に保健科教育に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（鬼頭英明・1 回）
5 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・リハビリテーション）	スポーツ健康学分野の特にリハビリテーションに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（安藤正志・1 回）

6 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・リハビリテーション）	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・アスレティックトレーニング） スポーツ健康学分野の特にアスレティックトレーニングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（泉重樹・1 回）
7 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	研究倫理面をはじめスポーツ健康学分野の外科スポーツ医学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する（瀬戸宏明・1 回）。
8 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・バイオメカニクス）	スポーツ健康学分野の特にバイオメカニクスに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（平野裕一・1 回）
9 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	スポーツ健康学分野で研究を行う上で必須の研究倫理について理解する（木下訓光・1 回）。【授業は対面で実施】
10 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・コーチング）	スポーツ健康学分野の特にコーチングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（苅部俊二・1 回）
11 回	メディアを読み解き、わかりやすく伝える（スポーツマネジメント領域・スポーツメディアとプレゼンテーション）	修士論文に向かう際のメディア情報の利用に関して、基本原則に始まってメディア間の個性や特徴を把握し、そこにかかるバイアスや真意をくみ取る力を養う。また、修士論文作成の過程で必要となるプレゼンテーションの要諦を伝授する。（山本浩・1 回）
12 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・競技力向上）	スポーツ健康学分野の特に競技力向上に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（ネメシユ・ローランド・1 回）
13 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマネジメント）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマネジメントに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（吉田政幸・1 回）
14 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・健康体力づくり）	スポーツ健康学分野の特に健康体力づくりに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（高見京太・1 回）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。授業時間外でレポート作成を要する場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

## 【参考書】

その都度紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価して 0 点から 7 点で採点する（7 点 ×14 回 = 98 点満点）。98 点を 100 点に補正して S ~D の評価をする。  
なお、2/3 以上の出席がない場合は評価の対象外とする（E 評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き有意義な講義を行っていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

## 【その他の重要事項】

特になし

発行日：2021/5/1

**[Outline and objectives]**

For Sport and Health Studies, teachers are required to have the fundamental knowledge and practical skills of the course as well as sound study ethics. Through the unique lectures of our various professors, this class aims to provide students with knowledge of underlying philosophy and insight into the design of study plans.

HSS500I1

## スポーツ健康学特論 I (心身科学)

島本 好平、中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1~2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学領域における心身科学分野の研究を紹介しながら、学術論文の読み方や執筆の仕方の基礎的技術について学習します。数量的および質的研究の理論や方法について体験的学習や文献講読などを通じて理解を深めます。

## 【到達目標】

心身科学分野の研究の視点を学習し、当該分野の文献を読み、理解する能力を養う。修士論文を執筆する上で必要となる基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業の前半では、体験的学習を通して研究遂行上必要な統計分析の基礎的技術について学ぶとともに、心身科学的現象を扱った研究をレビューし、それについて意見交換することによって当該分野の数量的・質的研究の基礎を学びます。後半では、心身科学に関する研究を進めていく上での主要なツールである心理尺度を取り上げます。そして、その基本的な考え方や因子分析を通じた作成方法等を学びます。また、自身の研究テーマへの心理尺度の活用についても考えていきます。なお、授業で取り組むレポートやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学習目標、単位認定基準、履修上の諸注意等を説明する。アイスブレイクにより受講生間の交流を深める。
【担当：中澤】	アイスブレイク	
第 2 回	自己理解の促進	グループワークにより自己理解・他者理解を深める。
【担当：中澤】		
第 3 回	こころとは何か？	パーソナリティの観点から心について学び、自己理解を深める。
【担当：中澤】		
第 4 回	身体活動による心理的変化の測定	体験的学習により、身体活動に伴う心理的变化を測定する。
【担当：中澤】		
第 5 回	身体活動による心理的変化の分析	身体活動による心理的影響の測定結果について統計分析（t 検定）を試みる。
【担当：中澤】		
第 6 回	こころとパフォーマンスの関係	不安をキーワードとした文献をレビューし、こころと身体の関係について理解を深める。
【担当：中澤】		
第 7 回	アスリートを対象とした事例検討	メンタルサポートによるアスリートの心理的变化のあり様について学習する。
【担当：中澤】		
第 8 回	アクティビティ	自己理解・他者理解に関するアクティビティを通じて、受講生間の交流をさらに深める。
【担当：島本】		
第 9 回	こころを評価する方法を知る	心理尺度の基本的な考え方について理解を深める。
【担当：島本】		
第 10 回	こころを評価する練習	既存の心理尺度を取り上げ、尺度の質問項目の作成方法について理解を深める。
【担当：島本】		
第 11 回	こころを評価する項目の作成	自らが興味・関心のある構成概念（イメージ）を取り上げ、それを評価するための項目の作成を試みる。
【担当：島本】		
第 12 回	項目の採否を決める因子分析	因子分析の基本的な考え方について理解を深める。
【担当：島本】		
第 13 回	心理尺度の活用	自身の研究テーマへの心理尺度の活用について考える。
【担当：島本】		
第 14 回	アンケート調査の実際／後半のまとめ	アンケート調査を実施する際の手続きやノウハウについて理解を深める。
【担当：島本】		

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。
2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに評価し、その平均点を評価点数とします。前半部分（中澤担当部分）では、各授業時に提出されたレジュメ、リアクションペーパーおよび授業への参画状況を点数化して平均したものを前半部分の評価点数とします。

後半部分（島本担当部分）では、授業への参画状況やリアクションペーパー、各課題の提出状況等をもとに総合的に評価し点数化します。

## 【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

## 【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

## 【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. やむ負えず欠席する場合は、可能な限り事前にその旨を連絡してください。
3. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

## 【Outline and objectives】

While introducing research in the field of psychosomatic science in the field of sports and health, you will learn the basic techniques of how to read and write academic treatises. Deepen your understanding of the theory and methods of quantitative and qualitative research through experiential learning and reading literature.

HSS5001I

## スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)

木下 訓光、瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5 | キャンパス：多摩

配当年次：1~2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：○

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。

## 【到達目標】

スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業の前半はスポーツ医学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。

後半はスポーツ医学領域の先端知見・研究成果について学習する。基本的に①各回のテーマに関連する文献紹介・精読、②各回のテーマに関する講義、③症例提示の3部構成で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	生体を構成する物質 【担当：瀬戸】	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】 元素、細胞構築、組織、細胞膜
2 回	運動・身体活動の生化学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3 回	運動・身体活動と物理量 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究に必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。 【keyword】 単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4 回	医学研究で活用する基礎統計学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】 記述統計、カイ2乗検定、2群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5 回	運動と細胞内シグナル伝達 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】 内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
6 回	運動と免疫系 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム（免疫系）の基礎的事項を学習する。 【keyword】 白血球、B細胞、T細胞、サイトカイン、炎症
7 回	運動介入と機能への影響 【担当：瀬戸】	運動習慣、運動療法の効果のトピックスとして、運動介入（短期的・長期的）と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】 運動療法、変形性関節症、長寿

8 回	最大酸素摂取量とその活用 【担当：木下】	最大酸素摂取量の決定方法に関する生理学的課題について文献を紹介・精読する。 最大酸素摂取量の測定方法、特に近年普及の著しい <b>breath by breath</b> 法とその問題点について紹介する。 実際のアスリートの最大酸素摂取量を考察する。 【keyword】 最大酸素摂取量、ATP、ミトコンドリア、エネルギー基質、呼吸生理学
9 回	アスリートにおける生体エネルギー論の活用 【担当：木下】	mechanical efficiency や、誤解が多いためほとんど場合で正しく運用されていない高強度インターバルなどについて学び、トレーニングやパフォーマンスについての生体エネルギー論的考察を行う。 【keyword】 クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10 回	身体組成（体脂肪率）の医科学 【担当：木下】	体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
11 回	エネルギー代謝とアスリートの減量 【担当：木下】	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、減量・リバウンドの機序などについて学習する。 【keyword】 基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリーメーター、内分泌（ホルモン）
12 回	女性選手の三徴 【担当：木下】	女性選手の三徴（female athlete triad）の歴史、概念、実態、評価法、対処・治療法についてアスリートの摂食障害、骨粗鬆症などの実例を通して学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、骨代謝、月経異常、低用量ビル
13 回	アスリートの臨床栄養学 【担当：木下】	サプリメント、low energy availability、within day energy balance など、アスリートの栄養とパフォーマンスを考えるうえで必要な最先端の理論と臨床（対処法・治療法）について学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、within day energy balance、貧血、ergogenic aid
14 回	スポーツ心臓病学 【担当：木下】	スポーツ心臓とは何か、歴史・定義・臨床的意義：パフォーマンスとの関係などについて最新のエビデンスを踏まえて学習する。 【keyword】 心肥大、左室リモデリング、アスリート、突然死、スポーツ心臓、メディカルチェック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の授業（瀬戸担当部分）では、事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。

後半の授業（木下担当部分）においては、指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

シンプル生化学【改訂第6版】、監修：林典夫・廣野治子、南江堂、2014年“Exercise Physiology (11th Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2020. ※研究室收藏、ただし旧版および10版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり各回のテーマに応じて必要な文献を適宜提示する。

【後半の授業（木下担当部分）】 テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは授業回ごとに紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに独立して評定を行い、その平均点をもって評価点数とする。前半（瀬戸担当部分）においては、各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容をS~Dまで評定し、これを点数化して平均したものを前半（瀬戸担当部分）の点数とする。後半（木下担当部分）においては、以下の通りである。授業内で課題を課す場合がある。関連してレポート作成を求める場合がある。また授業内で試験を行う場合がある。試験を行う場合は筆記試験または口頭試験で行う。課題の達成度、レポートの内容、試験の結果などを総合評価して点数化し、後半（木下担当部分）の点数とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

後半の木下担当部分に関しては、2020年度までとは完全に授業内容を変更し、最先端の臨床スポーツ医学的テーマを扱ったうえで、「ここでしか学べないスポーツ医学」を提供する。履修者が数学や化学・物理学、生化学といった科学の基礎となる分野に関して一定の習得をしていることを前提に授業を行うので注意すること。

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

各回の授業内容を継続的に積み重ねて学習していかなければ学修目標を習得することが不可能となるので、できるだけ欠席をしないこと。やむを得ず欠席をする場合には、欠席回における学習内容相応の課題を与える。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.

HSS5001I

## スポーツ健康学特論Ⅲ (人文社会科学)

伊藤 真紀、井上 尊寛、山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究領域における研究の視点と方法論について解説を行います。本授業では、三名の専任教員が各々の専門分野に関する研究について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

人文社会科学諸分野の研究論文を読み込み、スポーツ健康学における研究の在り方を理解し、必要な研究計画、データ収集、分析、考察、成果発表を行うことができる力を身に付けていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究の視点や方法論を理解するための講義を中心に進めます。後半部では各教員は自身の専門分野を切り口に、実際に関連論文を読み込み、討論をおこなっていきます。研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価します（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	人文社会科学の視点	スポーツビジネス現場の課題について理解する。 スポーツビジネス現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2 回	研究の方法論①	社会調査の種類について理解する。 量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けることができるようになる
3 回	研究の方法論②	スポーツ組織論に関連する研究と理論に関する知識と方法を理解する。 スポーツ組織論に関する研究論文を読み込む。
4 回	研究の方法論③ 質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の種類について学ぶとともに、質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。
5 回	研究の方法論③ 質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリ化、類型化について学習し、実際に収集した質的データの分析を行う。
6 回	研究の構造①	仮説検証型論文と仮説生成型論文との違いについて学ぶとともに、特に社会科学における論文の構造についての理解を深める。
7 回	研究の構造②	スポーツマネジメント領域における研究のテーマや変遷などについて概観する。
8 回	研究の構造③ リサーチデザインの重要性	定量的な調査について、基本的な調査設計の考え方や内容的妥当性を担保するための手順や方法について理解を深める。
9 回	研究の構造④	仮説の導出や得られた結果から実践的な示唆を導くために必要な科学的かつ合理的な根拠の示し方について、先行研究を参考に理解を深める。
10 回	研究の構造⑤	定量的な情報によって結論を導くための分析の手法について、実際のデータを用いながら自ら分析を行う。

11 回 研究の周辺構造①  
スポーツ団体構造論

身の回りにある様々なスポーツ組織の変化を捉えながら、それぞれがどのような世界観に立って機能しているか。また研究対象となる世界が何を求めているかを探る。

12 回 研究の周辺構造②  
インタビュー論

活字でのやりとりはもとより、バーバルなコミュニケーションに際してもどのような答えを引き出せるかは、聞き手の繰り出すことばやアクションに影響を受ける。データを集める際のインタビューについて考える。

13 回 研究の周辺構造③  
プレゼンテーション論

研究の周辺構造③  
プレゼンテーション論現代の研究は、どこかで必ずプレゼンテーションを伴う。スライドを使ったプレゼンテーションの完成度を上げる方法論と考え方を身につける。

14 回 研究の周辺構造④  
報道と研究

アカデミズムとジャーナリズムの最大の違いは、客観性をとことん突き詰めそれを積み上げるか、時代の求めに応じて速報性を重んじるかにある。報道の今とアカデミズムの融合点を探る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5. 授業時間外の学習授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題されます。これらに計画的に取り組んでください。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布します）。

## 【参考書】

その都度授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者がより深く考えるように進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

特にありません。

## 【Outline and objectives】

In this class, we will explain the viewpoints and research methodologies in the research fields of social and human science in sports and health sciences. In this class, three full-time faculty members will explain about their research in their respective specialties so that students can carry out high-quality research.

SOM50011

**公衆衛生学特論**

北垣 邦彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、ヒトが抱える健康課題について科学的根拠に基づく背景要因の理解を通して、課題解決の方策を探る力を身に付けられるようにすることである。

**【到達目標】**

集団の疾病及び健康の保持増進の方策について理解し、生涯を通じての健康的なライフスタイルの形成に役立てることができるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

「健康」、「保健統計」、「疾病とその予防」、「疫学」、「感染症」、「母子保健」「産業保健」「環境保健」について、歴史的経緯、マスメディアによってとりあげられる関連事項、実例や研究例を題材に取り上げ、興味・関心がもてるようにするとともに、講義だけでなく考え方や対処法等についてディスカッションにより掘り下げる。また、映像教材を積極的に活用する。なお、授業は対面授業を原則とし、課題に対する双方向の意見交換により進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	概論と歴史	公衆衛生学の歴史と学問領域の特性について概説
2 回	保健統計－人口統計－	保健統計のうち、人口ピラミッド、人口動態統計、人口動態統計及びデータの国際比較、国内の地域の実情、背景について概説
3 回	保健統計－死因統計－	死因統計とは何か、どのような意味をもつか解説するとともに、日本と諸外国との実態を比較し課題を探る。
4 回	保健統計－生命表－	生命表、平均余命及び平均寿命について概説
5 回	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念について概説
6 回	生活習慣病とその予防	悪性新生物、心疾患など生活習慣がもたらす疾患について、予防方法も含めて解説
7 回	感染症	感染症とは何か、問題点及び法律上の対応について概説
8 回	感染症の予防	感染症の予防方法及び予防接種について解説
9 回	疫学 考え方	疫学の考え方について過去の事例をもとに解説
10 回	疫学－コホート研究－	疫学研究の代表的な方法であるコホート研究について事例を紹介しながら、利点、欠点も交えて解説
11 回	疫学－症例対照研究－	疫学研究のうち症例－対照研究について事例をもとに利点、欠点も交えて解説
12 回	母子保健	母子の健康状態の尺度となる健康指標及び法律上の対応、行政の取組について解説
13 回	産業保健	労働衛生の実態及び産業保健活動について解説
14 回	環境保健	公害、環境衛生及び環境保健活動について解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日常的に公衆衛生に関する新聞記事や行政機関の動向、発信された情報に関心を持ち、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テーマ毎に資料を配付する。

**【参考書】**

国民衛生の動向

**【成績評価の方法と基準】**

授業毎のレポート（50%）及び最終レポート（50%）により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

少人数での実施であることから、事例について詳細な意見交換が可能であることから、学生の要望も踏まえ、大学院にふさわしい一歩踏み込んだ意見交換が継続する。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline and objectives】**

the purpose of this course is for students to deepen the understanding of public health, and find solutions to a challenge.

HSS500I1

## 健康体力学特論

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、さらに学校体育に関連した体力学の基礎的知識を学習する。健康やスポーツに対し、様々な視点からみた体力の諸要素がどのように関連し、貢献するのかについて学び、理論を実践場面へ適用できる能力を習得する。

## 【到達目標】

- ①体力に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②健康やスポーツに関わる主たる体力要素について、理論と測定法を習得する。
- ③体育科教育等の様々な場面における体力の定量的評価法およびその解釈について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

生涯にわたる健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関する概念や理論を理解した上で、特に健康やスポーツ・身体活動に重要な体力要素を紹介していきます。また、実際の測定方法や評価方法についてもその手法を解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、一方的な知識提供の場になることを避けるため、授業内容に対しての受講者全体での討論や個別に課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	運動・体力の発達	体力の基礎的概念と共に、身体の発育発達や加齢に応じた各体力要素の変化について理解する。
2 回	健康関連体力：全身持久性体力の概念	健康関連体力の一つである全身持久性体力の概念と、呼吸・循環・代謝などの関連する生理学的バックグラウンドを理解する。
3 回	健康関連体力：全身持久性体力の測定指標と理解	全身持久性体力の直接測定法および推定法を学び、種々の評価法を習得する。
4 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の概念	健康関連体力の一つである筋力・筋持久力の概念と生理学的バックグラウンドを理解する。
5 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の測定指標と理解	筋力・筋持久力の主たる測定法を学び、種々の評価法を習得する。
6 回	健康関連体力：柔軟性の概念	健康関連体力の一つである柔軟性の概念と生理学的・解剖学的バックグラウンドを理解し、評価法を習得する。
7 回	健康関連体力：身体組成の概念	健康関連体力の一つである身体組成の概念と生理・生化学的バックグラウンドを理解する。
8 回	健康関連体力：身体組成の測定指標と理解	身体組成を測定する種々の測定法における測定（推定）原理を理解し、評価法を習得する。
9 回	サイバネティクスの体力：調整力	身体を自在に操作するために必要な調整力について、その概念と神経生理学的なバックグラウンド、および測定・評価法を理解する。
10 回	サイバネティクスの体力：敏捷性・巧緻性	身体を自在に操作するために必要な敏捷性・巧緻性について概念と神経生理学的なバックグラウンド、高齢者における特徴などを学び、その測定・評価法を理解する。
11 回	パフォーマンスに関連する体力の定量化	各年代のスポーツ実践場面で特異的に必要となる種々の体力要素について、その具体的な測定・評価方法を習得する。
12 回	体育科教育における体力の評価とその基準	学校体育における体力測定・調査を実施する際の具体的な手順・方法および留意点について学習する。

13 回	測定結果の分析・データマイニング	体力測定結果を目的に応じて分析するための主たる方法を学習し、データから新たな体力学的知見を抽出するための手法を理解する。
14 回	体力学における課題と展開	現在の体力学・体力測定における課題を学び、それを解決するために今後、体力学分野において展開が期待される研究内容について理解する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示された課題の内容に基づいて授業中に頻繁に発言を求めます。課題は授業内で提示しますが、次回までに必ず予習して来てください。また、数回のプレゼンテーションを求める予定ですので、授業内で指示される準備も必ず実施して頂くようにしてください。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂  
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村慎一（監）/杏林書院

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参画（討論への参画）状況：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

## 【学生の意見等からの気づき】

2020 年度までは、他の授業との兼ねあいで、本来春学期に開講する予定で授業内容を考えていた授業を秋学期に開講せざるを得ない状況であったため、「体力・機能測定評価演習」を合わせて受講している受講生にとっては、内容的に履修する順番が逆になってしまっていました。

2021 年度からは、本授業を春学期に開講できるようになったため、この授業だけを履修する場合でも、「体力・機能測定評価演習」と合わせて履修する場合でも、学習しにくい状況や偏りが解消されると考えています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This class has two objectives of learning. The first is to learn fundamental theories about physical fitness and the physical functions related to health, sports, a physical activity, and a school physical education. The second is to learn how various physical strength elements relate to health and sports and how they contribute and to acquire the ability to apply theories to practice.

HSS500I1

**健康心理学特論**

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体的・心理的（精神的）・社会的健康に対する、ライフスキル教育的アプローチを学ぶことをテーマとします。

**【到達目標】**

個人・集団を対象として、ライフスキル教育にもとづくヘルスプロモーションの実際を理解することを目標とします。最終的には、受講生自らライフスキルの獲得が個人の健康の維持・増進にどのように貢献するかを説明でき、その実現に向けて行動できるようになることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

ライフスキルを構成する個々のスキルが、個人の身体的・心理的・社会的健康の維持・増進にどのようにつながるのかを学習します。また、各回ではあるテーマについてグループディスカッションを実施し、各グループからの提示されたアイデアをクラス全体でも共有することで、一人ひとりの考え方の幅を広げ、個人の中のイノベーションの形成を促していきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の方法等を説明するとともに、アイスブレイクを実施する。
2 回	精神的健康の維持・増進に向けて（ストレスパターン）	心理検査をもとに、自らのストレスパターンを診断する。
3 回	精神的健康の維持・増進に向けて（失敗に対する肯定的認知）	失敗に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
4 回	精神的健康の維持・増進に向けて（緊張に対する肯定的認知）	緊張に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
5 回	精神的健康の維持・増進に向けて（アンガーマネジメント）	怒り等の感情をコントロールする方法について学ぶ。
6 回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標設定）	目標を適切に設定するスキル（目標設定スキル）について学ぶ。
7 回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標と自分との距離を縮める）	自分に合った目標を設定するために必要な自己理解について学ぶ。
8 回	精神的健康の維持・増進に向けて（他者とかかわり自己を理解する）	他者理解を通じて自己理解を深める方法について学ぶ（他己紹介）。
9 回	精神的健康の維持・増進に向けて（自分らしさとは何かを理解する）	「自分らしさ」を見つけ、確立するための方法を学ぶ（ジョハリの窓）。
10 回	精神的健康の維持・増進に向けて（性格診断から進める自己理解）	性格検査をもとに、自己理解を深めていくための方法について学ぶ。
11 回	社会的健康の維持・増進に向けて（コミュニケーション）	円滑な人間関係のために必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ。
12 回	社会的健康の維持・増進に向けて（グループワーク）	グループワークを活用した、コミュニケーションスキルの高め方について学ぶ。
13 回	社会的健康の維持・増進に向けて（コーチングスキル）	上下関係を円滑に進めるために必要なコーチングスキルについて学ぶ。
14 回	まとめ	心身相関の考え方をもとに、これまでの一連の内容を振り返りさらに理解を深める。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ライフスキルの考え方を取り入れた研究計画（最終課題レポート）を、受講者それぞれのフィールドにて検討の上、提出してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間以上を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし。

**【参考書】**

授業の中でその都度紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

(1) 作成した最終レポートの内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけ意見交換の時間を取りながら、授業を行えるようにと考えています。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし。

**【その他の重要事項】**

なし。

**【Outline and objectives】**

To learn the life skills education approach to physical, psychological, and social health.

HSS500I1

## スポーツ栄養学特論

小清水 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位  
曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩  
配当年次：1～2 年次  
備考（履修条件等）：  
実務教員：

### 【Outline and objectives】

This course introduces the key principle of sports nutrition for elite athletes and recreational exercisers. It will cover sports nutrition for pre, during and post exercise considering various sports and body composition.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ選手を対象として、コンディション維持・調整と体づくりのために必要な栄養学の知識と科学的理論を学ぶ。

### 【到達目標】

スポーツ栄養に関する基礎的知識と科学的理論を習得し、それらをスポーツ現場での栄養サポートに活用・実践できる能力を備えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

スポーツ栄養学に関する最新の文献や事例に基づき講義と議論を深めていく。また、スポーツ現場で栄養指導を実践していくうえでの課題点についても議論していく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	エネルギー消費量の評価	スポーツ選手のエネルギー消費量の考え方の特徴と測定方法。
2 回	運動時のエネルギー補給	トレーニング状況に応じた栄養補給方法。 糖質補給の必要性和摂取タイミング。
3 回	スポーツ選手の体づくりとたんぱく質	スポーツ選手のからだづくりに必要なたんぱく質の摂取量、摂取方法。
4 回	ビタミンとミネラル	各種ビタミン・ミネラルの働きとコンディション維持との関連、摂取量。
5 回	スポーツ選手の身体組成	スポーツ選手の身体組成の測定方法・データの解釈、およびパフォーマンスとの関係。
6 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（1）	増量時の食事管理。
7 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（2）	減量時の食事管理。
8 回	スポーツ選手に多い栄養障害（1）	相対的なエネルギー不足、女性・男性アスリートの三主徴。
9 回	スポーツ選手に多い栄養障害（2）	貧血
10 回	水分補給	運動時の水分補給の意義と方法
11 回	サプリメントとアンチドーピング	サプリメント摂取に関するスポーツ選手への教育、ドーピングとの関連。
12 回	試合前後の食事、遠征時の食事	試合スケジュールに応じた食事調整。遠征時の食環境の整え方
13 回	スポーツ選手の栄養管理計画立案	これまでの授業内容を基にスポーツ選手の栄養サポート計画を立案する。
14 回	スポーツ選手の栄養管理計画に関して議論する。	第 13 回の授業で立案した栄養サポート計画を発表し、議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で講義する内容に関して、あらかじめ配布資料等を読んで、自分の考えをまとめておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

適宜資料、プリントを配布する。

### 【参考書】

Louise Burke & Vicki Deakin: Clinical Sports Nutrition 5th edition (McGraw Hill)

日本スポーツ栄養学会監修：エッセンシャルスポーツ栄養学（市村出版）

### 【成績評価の方法と基準】

授業での発表・議論への参加状況 40 %、期末に提出するレポート 60 % で総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、スポーツ現場での栄養サポートの問題点などの事例を取り入れ、実践で活用できる内容の授業としていく。

### 【その他の重要事項】

特になし

SOM5001I

**運動器疾患特論**

安藤 正志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

筋肉や関節（スポーツ傷害も含む）傷害と予防について学びます。筋骨格系障害の発生のメカニズムおよび予防とリハビリテーションを理解する。また、痛みの対処法や個々の筋肉をストレッチする方法を体験する。

**【到達目標】**

この授業を学ぶことで以下のことを理解できます。

スポーツ傷害を予防する方法

運動器疾患発生のメカニズム（なぜその関節に傷害が発生するか）

関節部位の機能解剖と触診（どの筋が収縮すると関節が動くのか）

肩関節の障害はどのように診るべきか

肘、手関節の障害はどのように診るべきか

股関節の障害はどのように診るべきか

膝、足部障害の診方

各関節に発生する障害を予防するためには

傷害が発生した場合、その対処方法（外科的治療、リハビリテーション、メディカルトレーニング）をどのように進めるべきか。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各部位の機能解剖を理解するために多くのセラピストやトレーナーがパイプルにしているカパンディのテキストを紐解く。特殊な機器を用いずに運動器の障害を機能診断する徒手医学による機能診断学を学ぶ。また徒手療法手技による対処方法あるいは機能改善を目的としたメディカルトレーニングの方法を考える。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	徒手医学による運動器疾患の機能診断と治療	概論、運動器疾患治療の歴史、専門用語の理解、手順など。
2 回	肩関節障害の徒手的功能診断と治療	肩関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
3 回	肘関節障害の徒手的功能診断と治療	肘関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
4 回	手、手指関節障害の徒手的功能診断と治療	手、手指関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
5 回	股関節障害の徒手的功能診断と治療	股関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
6 回	膝関節障害の徒手的功能診断と治療	膝関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
7 回	足、足部関節障害の徒手的功能診断と治療	足、足部関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
8 回	骨盤障害の徒手的功能診断と治療	腸骨、仙腸関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
9 回	腰椎障害の徒手的功能診断と治療（時に軟部組織障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（軟部組織）
10 回	腰椎障害の徒手的功能診断と治療（特に椎間板や関節障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（椎間板、関節）

11 回	中下部頸椎障害の徒手的功能診断と治療	中下部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
12 回	上部頸椎障害の徒手的功能診断と治療	上部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
13 回	顎関節障害の徒手的功能診断と治療	顎関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
14 回	胸郭障害の徒手的功能診断と治療	胸郭の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。その他の部位の徒手的功能診断と治療

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

解剖学、機能解剖の理解（機能解剖学あるいは解剖学と運動学を修得しておく必要がある）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

その都度紹介する。

**【参考書】**

からだの構造と機能 I、II ・ カパンディ機能解剖学 I、II、III 標準徒手医学入門編

**【成績評価の方法と基準】**

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

**【学生の意見等からの気づき】**

少人数であったので課題の割り振りが毎回のようにあった。課題発表と講義のバランスを考慮しながら進めたい。

**【その他の重要事項】**

学部で機能解剖学あるいは運動学と解剖学を履修しておくこと

**【Outline and objectives】**

Learn about muscle and joint disorders.

Understand the mechanism of occurrence of musculoskeletal disorder and how to prevent and treat.

Also experience functional diagnosis and treatment (using manual therapy techniques).

SOM5001I

**運動器疾患特論予防と対処特論**

安藤 正志

サブタイトル：スポーツ外傷および障害の予防と対処法

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

筋肉や関節（スポーツ傷害も含む）傷害と予防について学びます。筋骨格系障害の発生のメカニズムおよび予防とリハビリテーションを理解する。また、痛みの対処法や個々の筋肉をストレッチする方法を体験する。

**【到達目標】**

この授業を学ぶことで以下のことを理解できます。

スポーツ傷害を予防する方法

運動器疾患発生のメカニズム（なぜその関節に傷害が発生するか）

関節部位の機能解剖と触診（どの筋が収縮すると関節が動くのか）

肩関節の障害はどのように診るべきか

肘、手関節の障害はどのように診るべきか

股関節の障害はどのように診るべきか

膝、足部障害の診方

各関節に発生する障害を予防するためには

傷害が発生した場合、その対処方法（外科的治療、リハビリテーション、メディカルトレーニング）をどのように進めるべきか。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

各部位の機能解剖を理解するために多くのセラピストやトレーナーがパイプルにしているカバンディのテキストを紐解く。特殊な機器を用いずに運動器の障害を機能診断する徒手医学による機能診断学を学ぶ。また徒手療法手技による対処方法あるいは機能改善を目的としたメディカルトレーニングの方法を考える。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	徒手医学による運動器疾患の機能診断と治療	概論、運動器疾患治療の歴史、専門用語の理解、手順など。
2 回	肩関節障害の徒手的功能診断と治療	肩関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
3 回	肘関節障害の徒手的功能診断と治療	肘関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
4 回	手、手指関節障害の徒手的功能診断と治療	手、手指関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
5 回	股関節障害の徒手的功能診断と治療	股関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
6 回	膝関節障害の徒手的功能診断と治療	膝関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
7 回	足、足部関節障害の徒手的功能診断と治療	足、足部関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
8 回	骨盤障害の徒手的功能診断と治療	腸骨、仙腸関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
9 回	腰椎障害の徒手的功能診断と治療（時に軟部組織障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（軟部組織）

10 回	腰椎障害の徒手的功能診断と治療（特に椎間板や関節障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（椎間板、関節）
11 回	中下部頸椎障害の徒手的功能診断と治療	中下部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
12 回	上部頸椎障害の徒手的功能診断と治療	上部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
13 回	顎関節障害の徒手的功能診断と治療	顎関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
14 回	胸郭障害の徒手的功能診断と治療	胸郭の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。その他の部位障害（肋骨など）の機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

解剖学、機能解剖の理解（機能解剖学あるいは解剖学と運動学を修得しておく必要がある）本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

その都度紹介する。

**【参考書】**

からだの構造と機能 I、II ・ カバンディ機能解剖学 I、II、III 標準徒手医学入門編

**【成績評価の方法と基準】**

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

**【学生の意見等からの気づき】**

少人数であったので課題の割り振りが毎回のようであった。課題発表と講義のバランスを考慮しながら進めたい。

**【その他の重要事項】**

学部で機能解剖学あるいは運動学と解剖学を履修しておくこと

**【Outline and objectives】**

Learn about muscle and joint disorders.

Understand the mechanism of occurrence of musculoskeletal disorder and how to prevent and treat.

Also experience functional diagnosis and treatment (using manual therapy techniques).

SOM5001I

## 学校保健学特論

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、学校保健の理解を深め、子どもの健康課題解決の方策を提案できる能力を身に付けることである。

学校保健の領域を構成する保健管理、保健教育について基本的な知識を身に付けるとともに、課題解決のために考えられる方策について議論を深めながら理解を深め、実践力が身に付けられるようにする。

### 【到達目標】

学校保健の全体構造及び児童生徒の健康に係る課題の理解を通して、その重要性が認識できるようにするとともに教員等が果たす役割について身に付け、学校保健に関する実践力を身に付けることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「学校保健の歴史」、「学校保健の領域構造」、「関連する法律」を基礎とし、学校保健に関わる人的配置が「保健主事」「養護教諭」「学校三師」であること、その上で「学校保健活動」が実施されていること、さらには学校保健の中核となる領域は「保健教育」と「保健管理」であり、児童生徒の現代的な健康課題に対応するためには、その理解と効果的な教育や管理が必要であることについて、全体を通じて有機的なつながりを意識しながら進めていく。実態や実践事例を題材とし、ディスカッションを通じて理解を深める。原則、対面授業とし、課題解決型の授業振興とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	学校保健の概要	学校保健の概要について保健教育、保健管理の各視点から解説。
2 回	学校保健の歴史	学校保健が歩んできたこれまでの歴史的経緯について解説。
3 回	学校保健の領域構造	学校保健の領域を構成する、保健教育、保健管理、組織活動についてそれぞれの意義を解説。
4 回	関連する法律 －学校保健安全法を中心として－	学校保健の法的根拠となる学校保健安全法を中心内容について詳説。
5 回	保健主事と養護教諭	学校保健の中心的役割を担う保健主事及び養護教諭についてその職務内容を解説。
6 回	学校三師とは	学校保健を側面から支援する学校医、学校歯科医、学校薬剤師についてその役割を解説。
7 回	学校保健活動	学校保健活動とは何か、学校と家庭や地域をつなぐ連携の在り方について解説。
8 回	保健教育	保健教育を構成する保健学習、保健指導について解説。
9 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －喫煙、飲酒－	児童生徒の現代的な健康課題について喫煙、飲酒を中心に取り上げ解説。
10 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －薬物乱用、性の逸脱行動－	児童生徒の現代的な健康課題について薬物乱用、性の逸脱行動を中心に取り上げ解説。
11 回	保健管理の概要	保健管理の概要について解説。
12 回	健康診断	保健管理のうち、対人管理として重要な健康診断の内容について解説。
13 回	学校環境衛生総論	保健管理のうち、対物管理として学校環境衛生を取り上げ解説。
14 回	学校環境衛生各論	学校環境衛生基準を題材とし、教室環境、飲料水、プール等、学校環境衛生について各論として取り上げ解説。実験演習を実施。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童生徒や学生に関わる健康課題、問題行動について関心をもち、マスメディアが発信する情報や文部科学省から発信される情報を収集し、問題点や動向について認識を深めることにより、問題意識を高めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義内容に応じた資料を作成し配布

### 【参考書】

改訂 8 版学校保健マニュアル（南山堂）、学校保健実務必携（第一法規）

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is for students to deepen the understanding of school health, and make proposals to find solutions to challenge.

HSS500I1

## 体力・機能測定評価演習

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関連した体力およびそれに関する諸機能について、概念と基礎的理論を学習する。身体活動に関連する体力や身体諸機能を適切に測定し、評価しうる能力を習得する。

### 【到達目標】

体力・身体機能に関わる一般的概念・構成を理解する。②種々の体力要素について、理論と具体的な測定・評価法を習得する。③種々の体力要素の測定結果を、様々な場面に適用できる実践力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

身体活動を対象とした研究の実践時に重要な体力要素を取り上げ、その概念や具体的な測定方法を学ぶ演習を行います。また、実際の測定方法に加え、エビデンスに基づく評価方法について解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、演習における活動に加え、受講者全体での討論や課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	体力・身体活動研究における現状の理解	体力学、身体活動研究における現状や概念を理解し、測定・評価法の歴史を学ぶ。
2 回	サイバネティクスの体力：体性感覚の生理学的背景と概念	サイバネティクスの体力の優劣に影響を及ぼす体性感覚について、体力学的・生理学的側面から学習する。
3 回	サイバネティクスの体力：grading 能力測定の実際	調整力を構成する一因子であるgrading 能力について、その具体的な測定方法を学ぶ。
4 回	サイバネティクスの体力：関節角度測定の実際	調整力を構成する一因子である関節角の調整能力について、その具体的な測定方法を学ぶ。
5 回	サイバネティクスの体力：測定結果の分析と解釈	調整力の測定結果の分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
6 回	骨格筋活動：生理学的背景と測定法の理解	身体各骨格筋に関して、その収縮を司る神経系活動や収縮レベルに関与する生理学的背景について学習する。
7 回	骨格筋活動：筋電図計測の実際	骨格筋活動を間接的に把握する筋電図の計測方法を習得する。
8 回	骨格筋活動：筋電図の分析と解釈	計測された筋電図データの分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
9 回	エネルギー代謝：概念・生理学的背景	基礎代謝および運動時のエネルギー代謝について、生理学的側面から概念・測定原理を理解する。
10 回	エネルギー代謝：直接測定の実際	安静時および身体活動時における呼気ガス分析を用いたエネルギー代謝測定法を習得する。
11 回	エネルギー代謝：間接測定（推定）の実際	身体活動時のエネルギー代謝を簡易に推定する方法を習得する。
12 回	エネルギー代謝：測定結果の分析と解釈	測定されたエネルギー代謝の結果を用いた安静時代謝量の計算や、身体活動中の糖・脂質代謝の計算方法を習得する。
13 回	身体活動量・運動習慣：概念と調査法の理解	身体活動量の概念、運動習慣の定義などを学び、これらを測定する意義について学習する。
14 回	身体活動量・運動習慣：調査の実際と分析法の理解	身体活動量の測定結果、および運動習慣調査などの結果について、具体的な分析方法を習得する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5, 8, 12 回においては、各体力要素の測定法演習の結果を取りまとめる簡易レポートの提出を求めます。また、3, 4, 7, 10, 11, 14 回においては、授業内で測定したデータの取りまとめを授業時間外で行う必要があります。各授業における教員からの指示に従って、授業外学習を進めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

### 【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂  
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村慎一（監）/杏林書院

### 【成績評価の方法と基準】

授業での演習の状況（討論への参画状況を含む）：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

2020 年度までは、他の授業との兼ねあいで、本来秋学期に開講する予定で授業内容を考えていた授業を春学期に開講せざるを得ない状況であったため、「健康体力学特論」を合わせて受講している受講生にとっては、基礎知識を踏まえた上で学ぶべき内容を先んじて授業で学習するという状況になってしまっていました。

2021 年度からは、本授業を秋学期に開講できるようになったため、基礎的な学びの機会がない状況で専門的な演習を行わなければならないような状況は解消されると考えています。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【Outline and objectives】

The learning objective of this class is to acquire the ability to accurately measure and evaluate physical fitness and physical functions related to physical activity.

SOM5001I

## 運動疫学演習

笹井 浩行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動疫学とはヒトにおける運動と健康の間に原因と結果の関係（因果関係）があるかどうかを明らかにする学問である。100 人の血圧を測定し、その中で血圧が高い 20 人を 2 群に分け、A 群には運動指導を、B 群には「おまじない」をして 1 週間後に血圧を測定すると両群とも平均血圧は（ほぼまちがいでなく）低下する。このような研究デザインだと運動指導だけでなく「おまじない」にも降圧効果があることになってしまう。本授業では、このようなヒトを対象としたスポーツと健康に関する研究のピットホール（落とし穴）を解説するとともに、科学的に正しい研究結果を生み出す研究デザインを紹介し、ヒト集団を対象に実施されたスポーツと健康に関する研究結果を適切に理解できる能力を養うとともに、研究デザインを適切に立案できる能力を養う。なお、スポーツ健康学の文脈においてはスポーツ傷害やスポーツパフォーマンスも扱う。

## 【到達目標】

- ① 運動疫学に関する基本的な考え方、基本用語、基本統計を学ぶ。
- ② 運動疫学に限らずスポーツ科学全般における研究結果を適切に理解できる能力を養う。
- ③ 運動疫学研究の研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントで作成した教材と数多くの先行研究や総説（叙述レビューおよび系統的レビュー）を通じて運動疫学研究の基本を理解するだけでなく、各テーマについて討議することによって理解を深める。また、研究結果を理解したり、研究を実施したりする場合に陥るピットホールの種類や危険性を具体例を通じて理解することにより、適切な研究デザインによって生み出された研究結果とはどのようなものであるかを理解する。さらに、講義と討議によって得られた知識を実習（グループワーク）を通じてしっかりと身に着ける。  
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、授業はオンライン（リアルタイム双方向型）と対面を織り交ぜながら進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	運動疫学の基本および考え方	ガイダンス・自己紹介（講師、学生）・疫学のイメージを確認・疫学の基本や考え方について解説
2 回	信頼性の高い健康情報とはどのような情報かを解説	信頼性の高い健康情報に関する解説と討議・ヘルスリテラシーに関連するピットホール（落とし穴）の紹介
3 回	科学的根拠に基づく医療（EBM）およびスポーツ科学（EBSS）	科学的根拠（エビデンス）について解説・EBM および EBSS の概要や基本的な考えを解説
4 回	疫学の基本用語・基本統計・ピットフォール（落とし穴）の紹介	疫学の基本用語を解説・基本統計の紹介・疫学研究におけるピットフォールの代表（選択バイアス、交絡等）を解説
5 回	記述疫学研究の概要紹介	記述疫学研究の概要を説明・記述疫学研究として国民健康・栄養調査や各種統計調査を紹介し解説
6 回	地域相関研究の概要紹介	地域相関研究の概要を説明・地域相関研究としてニホンサン研究や赤ワインと心臓病に関する研究等を紹介し解説
7 回	横断研究の読み方、やり方	横断研究の概要とピットフォールを紹介・横断研究の読み方や実施方法を解説
8 回	症例対照研究の読み方、やり方	症例対照研究の概要とピットフォールを紹介・症例対照研究の読み方や実施方法を解説
9 回	コホート研究の読み方、やり方	コホート研究の概要とピットフォールを紹介・コホート研究の読み方や実施方法を解説
10 回	ランダム化比較試験の読み方、やり方	ランダム化比較試験の概要とピットフォールを紹介・ランダム化比較試験の読み方や実施方法を解説

11 回	実習   オリエンテーション・研究疑問の検討	実習（授業で紹介した疫学研究手法を用いて研究疑問の解決に向けた研究デザインを構築）の進め方を説明。各自で研究疑問に関連する先行研究について文献調査。
12 回	実習   仮想研究デザインの立案	各グループごとに先行研究を参考にしリサーチクエスションを解決するための仮想研究デザインを立案
13 回	実習   仮想研究デザインの発表準備	パワーポイントを用いて、各グループごとに立案した仮想研究デザインの紹介スライドを作成
14 回	仮想研究デザインの発表と授業の総括	各グループごとに立案した仮想研究デザインを学会形式で発表し、質疑応答を通じて運動疫学に対する理解を深める

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業前に、予習として授業テーマに関する事項をインターネット等を利用して確認しておくこと。各授業後には復習として授業で学んだ部分について参考図書を読んで内容を確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回、関連文献・関連総説・資料等を配布する。

## 【参考書】

- ・はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第 3 版）
- ・基礎から学ぶ楽しい疫学（改訂 4 版）
- ・身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～
- ・医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ

## 【成績評価の方法と基準】

授業における積極的な発言や質問等の授業態度、グループワークに対する参画度や貢献度、グループワークで作成した仮想研究デザインの内容や発表態度、質疑応答内容により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

クラスサイズが小さいため、各受講生の研究内容や個別の要望を聞き、適宜修正しながら授業を展開する。

## 【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションができるよう、プレゼンソフトが入ったノート PC を毎回の授業で持参すること。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

Physical activity epidemiology is an academic discipline that clarifies causal relationships between physical activity, sedentary lifestyle and various health outcomes. This course is aimed at fostering student's capability to understand research findings in this field and to propose a scientifically-sound research design among populations of your interests.

HSS500I1

## スポーツマネジメント特論

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はスポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとみなし、スポーツ産業の発展に向け、スポーツマネジメントの論理と実践を総合的に学習する。

## 【到達目標】

1. スポーツマネジメントがビジネスマネジメントの一つとして登場し今日に至った歴史的経緯を説明することができる。
2. スポーツ組織の内部環境のマネジメント（組織論、施設管理、ファイナンス）について理解し、その実践方法を説明することができる。
3. スポーツ施設の外部環境のマネジメント（マーケティング）について理解し、その実践方法を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業はスポーツマネジメントの主要分野とそれらと対応する事例に焦点を合わせながら、スポーツマネジメントを総合的に学習する。受講者は事前に配付資料を読み、各トピックについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。また新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツビジネスとは	スポーツのビジネス化が止まらない。その背景、現状について理解を深める。
2 回	スポーツマネジメントとは	ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、現状について理解を深める。
3 回	スポーツ産業とは	スポーツマネジメントの対象分野となるスポーツ産業の具体的な個別産業領域、それぞれの市場規模、これまでの発展の経緯、そして今後成長が期待できる産業について理解を深める。
4 回	スポーツ組織論：計画、組織化	スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。
5 回	スポーツ組織論：実行、評価	スポーツ組織論の中でも、所属メンバーの動機づけと事業評価について、マネジメント理論とともに学習する。
6 回	スポーツ消費者行動	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的变化を必要とする。ここではファンの誕生のメカニズムについて学習する。
7 回	スポーツマーケティング	多様化する消費者ニーズを充足するスポーツプロダクトの創造に向け、最新のサービス中心の論理を含めたスポーツマーケティングコンセプトについて議論を展開し、その理解を深める。
8 回	ブランドマネジメント	コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジックについて学習する。
9 回	マーケティングミックス	スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングミックスと呼び、それぞれの要素の特徴について学習する。

10 回	スポーツスポンサーシップ	アスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。
11 回	スポーツ施設マネジメントの基礎	今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、IT テクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。
12 回	スポーツ施設マネジメントの今後：第二局面のスポーツ施設	2000 年以降、スポーツ「しか」見せない第一局面のスタジアムから、スポーツだけでなく多様なサービス「も」提供する第二局面のスタジアムへの転換が起こっている。こうした変化の背景を学習するとともに、第二局面のスタジアムが生み出す様々な効果について理解する。
13 回	スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントの開催において、大会の成功だけでなく、そのイベントが地元地域にもたらす恩恵を長期に渡って根付かせることが重要である。この恩恵はレガシーと呼ばれ、有形レガシーと無形レガシーの二つに分かれる。本授業ではこのレガシーについて理解を深める。
14 回	スポーツマネジメントのまとめ	現代社会におけるスポーツマネジメントの重要性を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配付される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想をまとめ、授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（毎回、資料を配付する）。

## 【参考書】

原田宗彦（編）（2021）スポーツ産業論（第 7 版） 杏林書院：東京。  
 仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。  
 原田宗彦・小笠原悦子（2008）スポーツマネジメント（スポーツビジネス叢書）。大修館書店：東京。

## 【成績評価の方法と基準】

小レポート：10 点 × 10 回

## 【評価基準】

10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章の精度が非常に高い。  
 8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、問いに対して合理的な説明を加えている。  
 6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加え、論じている。  
 4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつつ論じている。  
 2 点：授業の内容を踏まえて論じている。  
 25 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。  
 20 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。  
 15 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。  
 10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつつ書いている。  
 5 点：授業の内容を踏まえて書いている。

## 【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないよう、現在のスポーツ界で起きているマネジメント関連の問題について授業で取り上げ、皆で議論します。

## 【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコン、タブレット端末など

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course considers sports as products and their projects and practices as sports businesses. This is an advanced study of sport management on the basis of sport management principles such as organizational behavior and sport marketing. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the sport management field.

ECN50011

## スポーツ産業学特論

## 井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

従来のスポーツ産業においては、用品産業、施設・空間産業、情報産業の3つの領域は独立し存在していた。しかしながら、近年スポーツ健康への関心の高まりや消費者のライフスタイルの多様化などを背景にスポーツ健康産業の市場が拡大し、それぞれの領域が密に接し、ついには交わるようになっていく。この複雑な産業構造や要素間の関係を理解し、スポーツその持つ価値を最大化し、かつ収益性を高めるということを踏まえつつ、スポーツそのものにダイナミズムを与えるスポーツ健康産業論を展開する。

## 【到達目標】

本講義では、スポーツ産業についての理解を深めることを目的としている。具体的にはスポーツを商品として捉えた場合の商品特性や多様化するスポーツサービス業についての構造的な理解と現代的な経営課題について学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

多様化するスポーツ産業について、消費者行動や商品開発、ブランディングなど経営戦略やマーケティングなどの視点から解説していく。

本授業は講義形式でおこないます。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらいます。授業ではプロジェクターを使用する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	受講ガイダンス	スポーツ産業の産業構造について解説するとともに、授業の狙い、進め方なども併せて説明する
2 回	スポーツ産業の産業構造	スポーツ産業の歴史と実態さらに抱えている問題について解説する
3 回	スポーツプロダクトとライフサイクル	スポーツを商品として捉え、その特性や商品としてのライフサイクルまたはマーケティングについて解説していく
4 回	スポーツサービス産業	スポーツサービス業の目的・形態について歴史的な推移と共に解説していく
5 回	スポーツとメディア産業	スポーツの産業化とメディアの関係およびメディア産業の発展について考察する
6 回	スポーツ用品産業	スポーツブランドのマーケティングやブランディングについて考察していく
7 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントとツーリズムの関係について解説していく
8 回	スポーツと地域	スポーツイベントやプロスポーツクラブが地域に与える影響について考察していく
9 回	フィットネスクラブのマネジメント	民間のフィットネスクラブについて歴史的な変遷や形態およびサービスの変遷について考察していく
10 回	公共スポーツ施設のマネジメント	公共スポーツ施設のマネジメントについて現代的な課題およびサービスについて解説していく
11 回	スポーツと CSR	CSR についての理解を深めるとともに、スポーツ組織における CSR について考察していく
12 回	スポーツとソーシャルインパクト	スポーツイベントが社会に与えている影響について考察するとともに、ソーシャルインパクトを創出する方法や意義について解説していく
13 回	メガスポートイベント（五輪のマーケティング）	オリンピックの近代化や商業化のプロセスを解説する
14 回	メガスポートイベント（サッカー W 杯のマーケティング）	サッカーワールドカップの近代化や商業化のプロセスについて解説するとともに、FIFA の世界戦略やマーケティングについても解説していく

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（感想や理解度の確認のための小テストなど授業内に実施する提出物）(10%) や期末のレポートの内容 (90%) から総合的に判断する

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者の要望に沿った内容も適宜盛り込んでいきたい

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

ECN50011

## スポーツ健康政策学特論

海老島 均

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：月 4/Mon.4 | キャンパス：多摩  
 配当年次：1～2 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピックに代表されるエリートスポーツを推進させる政策、また一般市民を対象としたスポーツによる健康政策、一見異なるレベルにおけるスポーツ関連政策に、いかに連続性を見だしていくのか？ 諸外国の実情および我が国の国家レベルまたは地方自治体レベルでの取り組みを踏まえながら議論を進めていく。受講生が、スポーツや健康をめぐる最新の動向、また各受講生の研究テーマを政策に関連づけることができることを目的とする。

## 【到達目標】

エリートスポーツ・競技スポーツ環境整備政策の特徴、健康政策の特徴を把握し、目指すべき方向性に向けての政策立案、選択をできるようにする。また両者の連続性、共存性に関する知識を深める。国内外のスポーツ健康政策の現状を理解し、その比較検討から、我が国の将来に向けてのスポーツ健康政策に関する戦略を受講生個々が提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

海外のスポーツ健康政策に関する調査事例を紹介するとともに、インターネット等を通して受講生個々が調査分析する機会を持つ。また我が国のスポーツ健康政策に関してはフィールドワークを行う機会を提供し、それぞれの調査結果をもとに議論を重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション：スポーツ健康政策の社会的背景	世界におけるスポーツ健康政策の現状と課題に関して紹介していく。講義の流れに関しても解説する。
2 回	我が国のスポーツ健康政策の経緯	我が国のスポーツ健康政策がどのような変遷を経てきたか、その歴史に関して理解を深める。
3 回	我が国のスポーツ政策の現状と課題	スポーツ振興基本計画、スポーツ立国戦略、スポーツ基本法によって発展したこと、また課題について考える。
4 回	諸外国のスポーツ政策の分析①（イギリス、アイルランド）	我が国と同様に学校スポーツが盛んな両国のスポーツ政策戦略を学ぶ。
5 回	諸外国のスポーツ政策分析②（ドイツ、オランダ、フランス）	地域スポーツクラブがスポーツ実践の基盤となるヨーロッパのスポーツ大国の戦略について学ぶ。
6 回	諸外国のスポーツ政策分析③（オーストラリア、NZ）	学校スポーツと地域スポーツクラブが共存し、多様なスポーツ環境を作り出している両国の戦略を知る。
7 回	諸外国のスポーツ戦略分析④（アメリカ、カナダ）	プロ・スポーツ先進国である両国の大衆スポーツの実践促進に対するアプローチや戦略について学ぶ。
8 回	諸外国のスポーツ政策分析⑤（中国、韓国）	エリートスポーツプログラムが成功している両国のスポーツ政策の特徴と、その社会的背景について学ぶ。
9 回	オリンピックとスポーツ政策	過去のオリンピックにおいて、開催国のスポーツ政策の変化と開催後のスポーツ環境への影響について知る。
10 回	スポーツ健康政策と「新しい公共」	「新しい公共」の概念と理解とスポーツ政策や健康政策策定に与える影響について考える。
11 回	地方自治体とスポーツ健康政策	コミュニティの形成・発展とスポーツ健康政策の関係性に関して学ぶ（自治体の役割に着目して）。
12 回	NPO やボランティアのマネジメント	コミュニティ・スポーツの発展にNPO やボランティアの果たす役割について事例をもとに考える。
13 回	総合型地域スポーツクラブ構想について検証する	総合型地域スポーツクラブの成功事例、課題に関して学び、今後のスポーツ健康政策策定に向けて考える。

14 回 スポーツ健康政策の方向性とアクターについて 我が国の健康スポーツ政策の目指すべき方向性と、アクターの役割について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で、次週に向けての課題図書を紹介または資料を配布する。それらを熟読し、テーマに関しての理解を深める。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

## 【参考書】

菊幸一他編著『スポーツ政策論』成文堂、2011、その他必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時の議論やリアクションペーパーの評価：60%  
最終レポートの評価：40%

## 【学生の意見等からの気づき】

各受講生の研究テーマに即した学びを深める機会をより一層提供できるよう努力したい。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

The sport policy which promotes elite sport environment towards Olympic Games or the other international competitions and the sport policy which enhances health of ordinal people through sporting activities coexists in different ways dependent on the given countries' policies. These policies can be separated or be integrated. Is it possible to create the continuity? We discuss this issue with the related data and documents about various countries and various levels of sporting fields and daily lives.

SOC500I1

## スポーツジャーナリズム特論

山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Web.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスはスポーツ報道の量や質にもそれなりの影響を与えている。勝敗の行方や帰結に焦点を当てるよりも、現況下でスポーツはどうあるべきか、アスリートがどう対応しているかといったテーマの増加がそれを反映している。一言でスポーツといっても、国により地域によりまた時代により、人々と社会の受け止めは様々でない。スポーツがジャーナリズムの対象になるとき、それを読み解く者は個々の論調や分析の後ろにあるスポーツの現代的フレームを知っておかなければならない。

## 【到達目標】

スポーツにはいつの時代も、政治・経済・社会・外交などが何らかの影を落としてきた。そんな中で現代スポーツは、メディアの波に乗ってその価値を過去とは比べものにならないほど大きく膨張させている。この講義の設定する目標は二つである。

①こうした環境下で伝えられるスポーツに関わる報道を、鋭く分析し、深く読み解く力を手にする。そのために、伝えられる世界観や社会正義を導く、メディアの周りの因子を探し出す。

②一方で、鋭い観察眼で説得力のある論調を文章化し、言葉で伝える能力を身につける。メディアの立場に立ったつもりで、特論の展開を具体的に実施する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ界に普遍的なテーマを設定し講義を進める。繰り返された出来事に焦点を当てることもあれば、ジャーナルな論点もある。スポーツ報道がどのように行われるのか。社会はどのようなりアクションを見せるのか。それに向き合う私たちはどう理解すれば良いのか。過去の映像素材や報道情報を随時ひもときながら、①歴史に基づいた②法に従った③経済原則を考慮した分析を問う。リアクションペーパーの提出ないしプレゼンテーションを要請する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス。	スポーツジャーナリズムの特性と歴史を説く。ジャーナリズムが近年問われてきた問題点を取り上げる。
2 回	東京オリンピック・パラリンピック報道検証～ゆれた期待～。	日本中を巻き込んだメイベント関連報道の波乱に富んだ一年半を追う。
3 回	活字ジャーナリズムの仕組みとその視点を探る。	紙媒体で始まった活字ジャーナリズムも現代はスクリーン上で勝負する時代である。その速報性、紙媒体との両立という難題に向かう今を見る。
4 回	テレビスポーツジャーナリズムの現代の変容はどう進んだか。	具体性と同時体験を提示しながらテレビには、スポーツジャーナリズムを牽引する時代もあった。それが今やモバイルにとって代われようとしている。
5 回	学校体育と部活動を考える。	2023 年を目途に進められる学校部活動の週末外部委託を、ジャーナリズムはどう捉えてきたか。
6 回	東西対決とドーピング。	世界が注目するメダル争いは政治の世界を巻き込み、「勝つことのみが善」であると信じて突き進む勢力を生んだ。スポーツが政治に最も翻弄された時代を振り返る。
7 回	アマチュアとプロフェッショナル。	商業化はプロ化の促進に弾みを付けた。しかしプロ化を促したのは金だけではない。私たちの社会そのものがプロ化を進める条件を整備し始めていた。
8 回	障がい者スポーツの捉え方。	障がい者スポーツが競技性を高めるにつれ、生活面や健康面で扱われていたものがスポーツ面に移動するようになる。

9 回	プロサッカーが生んだ地域化の流れを追う。	長らくスポーツといえばプロ野球が中心で、それは巨人に象徴される、全国民を味方にするチームづくりであった。Jリーグの発足はそこにくさびを打ち、新たに「地域」の視点を振り起こした。
10 回	生涯スポーツという発想はどう伝えられてきたか。	健康とスポーツの結びつきは、共同体の再構築だけでなく、高齢者対策、少子化なども密接な関係がある。そこに食らいつくスポーツジャーナリズムは少ない。
11 回	野球界の隆盛、波乱と再興。	日本のスポーツジャーナリズムで常に主役を張ってきたのは戦前から一貫して野球であった。興行としてだけではなく、教育、文化にも大きな影響を与え続けてきた野球が、スポーツジャーナリズムにどんな貢献をしてきたかを探る。
12 回	スポーツ界の男女同権と繰り返される人種差別。	男女同権への流れが進む一方で、人種差別、LGBT への対応などスポーツ界はまだ多くの問題をはらんでいる。ジャーナリズムの主張をつぶさに見る。
13 回	暴力的指導と組織のコンプライアンス。	暴力的な指導に加え団体の補助金の不正運用などガバナンス、コンプライアンスが問われ続けるのはいいないなげか。日本社会のスポーツ観を視野に入れながら、さまざまな報道を分析する。
14 回	特論総括と試験。	最も現代的なテーマに絞って講義内課題へ取り組む。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツニュースに敏感になると同時に、政治・経済・社会の出来事に常にアンテナを張っておく。社会を揺るがすスポーツ界の問題には、自分なりのメモを書きためておく。SNS の力が強い現代社会で、この真偽を自ら確かめようとする姿勢を大切に、大衆の支持する世界観に自分も与ってしかるべきかどうか、厳しく問い詰めてもらいたい。なお、世界のスポーツジャーナリズムに対しても積極的に分け入ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず。

新聞、テレビ、インターネットの報道を随時利用。

## 【参考書】

月刊「ジャーナリズム」（朝日新聞社）

隔月刊「調査情報」TBSメディア総合研究所

新聞各紙のコラムや社説、論評

## 【成績評価の方法と基準】

スポーツ事象に対する切り込み方、伝える為の構成、スポーツ世界観の広さを、随時要求する小論やプレゼンテーションに見る（50 %）

※ 13 回の講義で受講者から提示されるものに、それぞれに満点で 4 点を付与（合計すると理想的には 52 点となるはず）

最終講義の中の一部を使って行う小論文（50 %）

## 【学生の意見等からの気づき】

受講意欲が高いため、より新しいテーマを取り入れる。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン使用のこと。貸与パソコンが必要な場合は、担当教員に宛ててあらかじめ申請を求めたい。

## 【その他の重要事項】

フィールドワーク（なし）としているが、訪問先に可能性があれば受講生と相談の上実施することもあり得る。

## 【Outline and objectives】

The new coronavirus continues to have a certain impact on the quantity and quality of sports coverage. Rather than focusing on the outcome and consequences of winning and losing, the increasing number of themes such as what sports should be in the current situation and how athletes are responding reflects that. Even if it is a sport in a word, the acceptance of people and society is not identical, depending on the country, region, and era. When sports become the subject of journalism, those who interpret it must be aware of the contemporary frame of sport behind individual tone and analysis.

SOC500I1

## スポーツメディア特論

赤堀 宏幸、小池 隆俊

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：水 3/Wed.3, 金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩  
 配当年次：1～2 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治、経済、文化事象を把握し、これらがスポーツとどう関連付けられるかを根本的な主題としたい。スポーツと政治の関係も追求し、メディアの根本原則も考える。

## 【到達目標】

オリンピックをはじめ、国際大会や国内プロリーグなどの取材を通して「スポーツとは何か」「スポーツの真実」「スポーツに可能なもの」などを探っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、状況が許せばフィールドワークも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	新聞・通信のスポーツ取材のルール	新聞・通信各社がスポーツ取材をするときのルールや記者クラブシステム、プレスルームの運営、幹事社制度【担当：赤堀先生】
2 回	スポーツメディアとメディアスポーツ	アスリート、イベントがあって、メディアが存在する一方で、メディアとスポーツイベントが共存共栄の図式もある【担当：赤堀先生】
3 回	オリンピックとマスメディア	オリンピックを報道するマスメディアと大会の規模、競技・開催の変遷【担当：赤堀先生】
4 回	メディアと競技種目、公開競技の関係	オリンピックの競技種目、公開競技開催とメディアの関係（今昔）【担当：赤堀先生】
5 回	スーパーボウルとイングランドのプレミアリーグ	欧米のスポーツメディアとメジャースポーツの関係の大きさ【担当：赤堀先生】
6 回	イチロー、松井秀喜、松坂大輔と日本のスポーツメディア	メジャーリーグベースボール（MLB）にイチローが進んで以降の日本のスポーツメディアの変化【担当：赤堀先生】
7 回	日本国内、海外のスポーツ報道の速報性	スポーツの結果報道の新聞、電波という報形態から、より速報性で効果のあるネットメディアへの変遷【担当：赤堀先生】
8 回	放送メディアの登場から現在へ	ラジオの誕生は同時性の獲得でスポーツ報道に劇的な変化を生んだ。映像を加えたテレビはオリンピックごとに進化を続け影響力を増大してきた。そして現在インターネットと融合し新たな展開へ。【担当：小池先生】
9 回	メディアによるスポーツの市場化とアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。スポーツの発祥と進展の歩みを知る。【担当：小池先生】
10 回	スポーツイベントとテレビメディア	スポーツ組織、テレビメディア、スポンサー、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げた。巨額の放送権に絡みルール変更や、アスリートファーストでない事態も生じた。スポーツとメディアの関係とそこに潜む問題点を考察。【担当：小池先生】

11 回	スポーツドキュメンタリーの系譜	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経てそこに至ったのかを解き明かす手法は、映像テクノロジーの進化を伴いさらに興味深いものとなっている。【担当：小池先生】
12 回	イノベーションがスポーツを変える	スポーツを映し出すカメラの高度化、解析システムの発達、表示する CG 技術の進化。こうしたイノベーションはスポーツの見方に影響を与え、競技の進め方や勝つための戦略にも大きな変化をもたらしている。変化の真ただちにある現状を洞察する。【担当：小池先生】
13 回	個人がメディアとなる時代	SNS に選手が自ら情報を発信することは近年日常的になっている。コロナ禍でメディアの取材が制限される中、より活発に詳細な情報を発信し存在感を増している。SNS による情報発信の変化を捉え、そこから生じる問題点にも目を向ける。【担当：小池先生】
14 回	スポーツメディアの課題と近未来	4K・8K の高画質放送、ネットでの同時配信、ストリーミング配信など多様に展開し始めた放送メディア。インターネットメディアとの競合や融合が進む中でスポーツ報道がどう変わるのか。「見る」だけでなく「する」スポーツ情報へのニーズを含め近未来を探る。【担当：小池先生】

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

複数のメディアを常時チェックし、とりわけ直前に迫った東京五輪関連の報道を注視する。加えてスポーツのみならず政治、経済等社会全般の動向や世論の変化を敏感にとらえておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、新聞、書物などを持参する場合がある。

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

レポートで評価する。課題は前半赤堀、後半小池からそれぞれ提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

大きなトピック、世界を揺るがすスポーツ事象などは常に起こる可能性がある。それを勘案すれば、必ずしもシラバス通り、計画通りにいかない場合もある。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the relationship of the sports and the economy the culture and especially the politics in the world. It also deals with what the mass media should be.

SOC500I1

## スポーツ組織構造特論

伊藤 真紀

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

## 【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2 回	スポーツ組織におけるリーダーシップ 1	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1. リーダーシップ特性論 2. リーダーシップ行動論 3. リーダーシップ条件適応理論 4. 変革型リーダーシップ リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
3 回	マネジメントとは 1 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する
4 回	マネジメントとは 2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
5 回	組織とは スポーツの組織化、ビジネス化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する。
6 回	スポーツ組織のコントロールシステム	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。 組織コミットメント
7 回	スポーツ組織の経営環境と組織開発	スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について学習する。スポーツ組織における組織変革、組織開発、チームビルディングについて学習する。
8 回	スポーツガバナンス	スポーツ団体ガバナンスコード、中央競技団体のコンプライアンス強化に関する現状と課題について学ぶ。
9 回	アンチドーピングに関する各スポーツ組織の対応について	ドーピング問題に対する世界アンチドーピング機構、国際オリンピック委員会、各国のオリンピック・パラリンピック委員会の動向について学ぶ
10 回	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
11 回	人的資源管理政策・施策 職務満足と人事施策	人材マネジメント（HRM）の諸機能、戦略的人的資源管理（SHRM）、職務満足について理解し、人事施策がいかに組織と個人に影響するか、人事管理プロセスを学習する。
12 回	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。

13 回	ケーススタディー 1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。
14 回	プレゼンテーション	スポーツ組織に置けるマネジメントに関する事例について各自で調査し、分析し、プレゼンテーションを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

## 【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社

Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）＋ケーススタディーレポート（40%）＋プレゼンテーション（40%）＝100%という配分で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

今学期の授業は基本的に Zoom を使ったオンライン授業とします。

## 【Outline and objectives】

We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

SOC50011

## スポーツ消費者行動特論

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者の意思決定過程における心理と行動を説明するための理論を学習する。

## 【到達目標】

1. スポーツプロダクトの特性とそれを消費するスポーツ消費者について説明できる。
2. スポーツ消費者の意思決定過程を認知、魅力、愛着、忠誠の段階に分けて説明できる。
3. スポーツイベントにおける顧客満足的重要性を説明できる。
4. スポーツ消費者が形成する社会的アイデンティティについて説明できる。
5. スポーツブランドがスポーツ消費者に与える影響を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者は事前に配付資料を読み、各トピックについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。授業はディスカッション形式であり、受講者の参加を前提としている。

また新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の目的、概要、進め方について説明を受けるとともに、スポーツ消費者行動の定義と特性を理解する。
2 回	スポーツプロダクトとスポーツ消費者	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
3 回	スポーツ消費者の動機因子	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
4 回	スポーツ関与	スポーツとの関わり方は人によって異なる。これをスポーツ関与と呼び、その強さはスポーツの (1) 重要性、(2) 娯楽性、(3) 記号性によって決定する。これらの 3 つの側面を通じてスポーツに関与すると、結果的に消費者行動がどのように変化するか理解を深める。
5 回	スポーツ消費者の意思決定過程：認知と魅力の段階	スポーツに興味・関心の低い者が、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）を認知し、やがてそれらに魅力を感じるようになる意思決定過程について学習する。
6 回	スポーツ消費者の意思決定過程：愛着と忠誠の段階	スポーツ参加者やスポーツ観戦者が熱心な愛好者やファンへと成長する過程において、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）が個人の自己概念の中にどのように取り込まれ、アイデンティティの形成に至るかを理解する。
7 回	スポーツイベントと顧客満足	時には「負け」を前提に事業を展開しなければならないスポーツビジネスにおいて何故顧客満足が重要なのかを理解するとともに、スポーツイベントで提供されるサービス経験の質を高めることが顧客満足の向上につながることを理論的に学習する。
8 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者が特定のスポーツプロダクト、組織、イベントなどに継続的に愛顧心を頂き、それらと支援的な関わりを持つようになる現象を、顧客ロイヤルティの点から学ぶ。

9 回	スポーツ消費者とブランド	スポーツブランドにどのような付加価値が備わっているかを理解するとともに、それらの高め方と高めた結果期待できる競争優位性について学習する。
10 回	スポーツ組織の社会的責任とスポーツ消費者	成熟社会において人はより良く生きるためスポーツに対して個人的な恩恵だけでなく、より社会的なレベルの効果を求めるようになる。そのような社会において、スポーツ組織が果たすべき社会的責任について考える。
11 回	スポーツ消費者の社会的アイデンティティ	スポーツ消費者は様々なスポーツ対象（特定種目、選手、チーム、リーグ、イベント、地域など）を社会的アイデンティティとして自己概念の中に取り込むことで自分が何者なのかを確認している。ここではスポーツを通じて社会的アイデンティティの形成について学びを深める。
12 回	ブランドコミュニティと集团的ロイヤルティ	特定のスポーツブランドに対して愛着を持つスポーツ参加者やスポーツ観戦者が仲間意識を抱き、消費者同士の心理的つながりが強化されることで観測される集団レベルの行動について学習する。
13 回	スポーツ消費者とスポーツスポンサーシップ	今日、スポーツとそれを支援するスポンサーとのパートナーシップを通じて様々な価値が創造され、スポーツ界の発展に貢献している。ここではスポーツ組織、スポンサー、消費者の三者がどのように関わることでスポンサーシップが促進されるかについて学びを深める。
14 回	まとめ	これまでの学習内容を振り返るとともに、今後のスポーツ消費者行動論の方向性について議論する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配付される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想を持った状態で授業に出席しなければならない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（毎回、資料を配付する）。

## 【参考書】

仲澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 前半の内容に関するレポート（関与、PCM、顧客満足、顧客ロイヤルティなど）：50 点
2. 後半の内容に関するレポート（社会的 ID、ブランド、社会的効果、エンゲージメントなど）：50 点

## 【レポートの評価基準】

- 5 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができています。
- 4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
- 3 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いています。
- 2 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながりながら書いています。
- 1 点：授業の内容を踏まえて書いています。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

## 【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコン、タブレット端末など

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is an advanced course to learn the psychology and behavior of sport consumers. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply important constructs and theories related to sport consumers.

MAN5001I

## スポーツフィールドスタディー演習

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者のニーズや特性を理解するための市場調査を実際に行う。

## 【到達目標】

1. 量的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
2. 量的なアンケート調査を実施し、結果をまとめることができる。
3. 質的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
4. 質的なインタビュー調査を実施し、結果をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ組織は多様化するスポーツ消費者のニーズやライフスタイルに応じたサービスの提供を提供しなければならない。本授業はスポーツ消費者のニーズの理解において欠かすことのできない市場調査および解析の手法を学ぶとともに、実際の調査をとおして学習内容を実践経験へとつなげることが目的である。受講者はスポーツメーカー、プロスポーツチーム、フィットネスクラブなどのスポーツ消費者から収集したデータを解析し結果を報告することで、現場における課題の解決に資する証左の提示方法を習得する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツマネジメント現場の課題	スポーツマネジメント現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2 回	社会調査の種類	量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けることのできる判断力を身に付ける。
3 回	質問項目の作成	量的なアンケート調査において設定する必要のある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学び、自ら作成する。
4 回	調査票の作成	調査票の説明および依頼文の作成に加え、回答者が答えやすい質問項目のデザインやレイアウトを学び、さらにアンケートにおける共通手法分散バイアスや疲労バイアスなどの制御方法についても学習する。
5 回	標本抽出方法	社会調査における標本抽出方法について、確率抽出法と非確率抽出法の二種類から学びを深め、各自の調査に適したサンプリング方法を選択する。
6 回	量的データの入力	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを、エクセルと SPSS を用いて学習する。
7 回	量的データの記述統計	実際に収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
8 回	心理的要因の分析	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。
9 回	図表の作成	記述統計と心理的要因の分析結果を、エクセルによってグラフや表にまとめる。
10 回	質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。
11 回	質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリ化、類型化について学習する。

12 回	質的データの分析の実施	テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリ化を実際に行う。併せて、収集した質的データの分析結果をエクセルの表やパワーポイントの図などでまとめる方法を学ぶ。
13 回	プレゼンテーションの準備	収集した量的データと質的データの分析結果をパワーポイントスライドとしてまとめる。
14 回目	プレゼンテーション	学期を通じて実施した量的研究と質的研究の結果を、パワーポイントを用いて発表する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題されます。これらに計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

## 【参考書】

J リーグスタジアム観戦者調査（日本プロサッカーリーグ）  
スポーツ白書（笹川スポーツ財団）

## 【成績評価の方法と基準】

課題 1（調査票の作成）：25 点

課題 2（アンケート調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 3（インタビュー調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 4（調査レポート）：25 点

【評価基準】課題 1～4 の評価基準は以下とする：

25 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでおり、導き出した解答も課題に対する的確に答えている。

20 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでいる。

15 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら課題に取り組んでいる。

10 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

5 点：指定の形式に沿って書いている

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者がより深く考えるように進めていきます。

## 【Outline and objectives】

Sports organizations must provide services according to the needs and lifestyles of diversifying sports consumers. The purpose of this class is to learn the market investigation and analysis method indispensable in understanding the needs of sports consumers and to connect learning contents to practical experience through actual investigation. Students will learn how to present evidence that will contribute to solving problems at the practical environment by analyzing data gathered from sports consumers such as sports makers, professional sports teams and fitness clubs and reporting the results.

MAN50011

**スポーツマーケティングリサーチ演習**

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、研究や実務においても重要となるデータマイニングやテキストマイニングといった定量的な情報の扱い方について理解を深めていく。具体的にはマーケティング実行のプロセスの基礎的な情報である消費者の行動や特性を把握するための実践的な能力を身に付ける。

**【到達目標】**

マーケティングをおこなううえで、経営上の課題を発見し、解決するための方法（リサーチデザイン・分析および統計解析の手法）を理解していること、さらにはリサーチを自ら活用（実務者の立場からのインプリケーションを行うこと）する能力を高めることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、講義部分としてマーケティングリサーチの概要および統計的な分析の手法を学んだうえで、演習として我が国を代表するプロスポーツであるプロ野球やJリーグなどの実際のプロスポーツ興行に会場した観戦者を対象とした定量調査を実施し、調査の手法についての学習および得られたデータの解析をおこなうものである。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	マーケティングリサーチの概要	マーケティングリサーチの概要及びリサーチのプロセスについて解説する
2 回	課題設定	スポーツビジネスにおける経営的な課題を考え、調査すべき課題について検討していく
3 回	調査の種類	国内外の調査研究から調査の事例や、尺度について解説していく
4 回	定量データの扱い方①	SPSS について、基礎的な使用法について解説する
5 回	定量データの扱い方②	基礎集計（度数分布、記述統計、平均値、中央値）について学習する
6 回	定量データの扱い方③	t 検定および $\chi^2$ 検定、一元配置の分散分析について学習する
7 回	定量データの扱い方④	二元配置の分散分析、重回帰分析について学習する
8 回	定量データの扱い方⑤	探索的、確認的因子分析について学習する
9 回	定量データの扱い方⑥	テキストデータの解析について学習する
10 回	リサーチデザイン	調査項目の検討や妥当性について検討し、適切な調査を行うための準備を行う
11 回	質問紙調査の作成	各自が設定した課題に対して仮説を設定した質問紙調査の作成および、データ入力後の準備（SPSS のシンタックスの作成等）を行う
12 回	フィールドサーベイ	スタジアム等で調査を行う
13 回	サマリーの作成	得られたデータを入力し、集計作業を行う
14 回	調査報告書の作成	得られたデータからさらに、自らの課題を踏まえ、分析を行い、報告書をまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

SPSS については与えられたデータセットから、分析および統計解析の手法について事前の学習と事後の復習を行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

その都度紹介する。

**【参考書】**

その都度紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業にて課す課題報告（40%）、レポートおよび実査から得られたサマリー報告（60%）などから総合的に判断する

**【学生の意見等からの気づき】**

実査スケジュールを早目に公開し、早めに調整を図っていく

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline and objectives】**

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

HSS500I1

## スポーツコーチング学特論

苅部 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解し、その実践法を探究する。

## 【到達目標】

効果的なスポーツコーチングの実践のために必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

球技スポーツ、個人スポーツなど様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどの生涯スポーツに関するコーチングの方法や実践に関する論文や文献を読み解き要約を行う。さらにそれらについて自身の考えを述べるとともにディスカッションを行い、その内容をまとめる。また、実際のコーチングの問題、課題を検討するために、フィールドワークや事例報告などのフィールドスタディを実施し、プレゼンテーションによる発表、報告を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツコーチングとは	スポーツコーチングの本質を理解する 国内外のスポーツコーチングの実際について理解する
第 2 回	スポーツコーチングの方法① 球技系・集団型スポーツ	競技型スポーツコーチングの理論を習得する 球技系・集団型スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
第 3 回	スポーツコーチングの方法② 個人型スポーツ	競技型スポーツコーチングの理論を習得する 個人型（競争型・対人型）スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
第 4 回	スポーツコーチングの方法③ 生涯スポーツ	生涯スポーツコーチングの理論を習得する レクリエーションスポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
第 5 回	コーチングに必要なスキル	リーダーシップ、コミュニケーション能力などコーチングに必要なスキルについて理解を深める
第 6 回	コーチングの実践（技術）	技術面から見たコーチング実践について理解を深める
第 7 回	コーチングの実践（体力）	体力面から見たコーチング実践について理解を深める
第 8 回	コーチングの実践（戦術）	戦術面から見たコーチング実践について理解を深める
第 9 回	コーチの心理	競技者の心理を理解したうえでコーチの心理について考える
第 10 回	コーチング哲学	コーチの持つべき哲学について検討する
第 11 回	コーチング倫理・危機管理	コーチの持つべき倫理・危機管理について検討する
第 12 回	系統的指導プログラムの構成① 競技スポーツ	競技スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う
第 13 回	系統的指導プログラムの構成② 生涯スポーツ	生涯スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う
第 14 回	スポーツコーチング研究方法	スポーツコーチングの研究手法、データの解析方法を習得する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文検索サイトや図書館検索システムを利用しコーチングに関する論文や文献を読み、要約する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に設けませんが、適宜論文や文献を使用する

## 【参考書】

コーチングの心理 Q & A 不味堂

スポーツトレーニング理論 ブックハウス HD

## 【成績評価の方法と基準】

授業内に行う課題レポート（50%）とプレゼン・ディスカッションでの発言内容（50%）にて評価する

## 【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to gain in-depth knowledge of sports coaching and to learn how to develop one's own coaching style.

HSS500I1

## スポーツ運動学特論

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・運動の指導対象者のからだの理解と対象ごとの指導方法・内容を理解する。

## 【到達目標】

指導対象者のからだの特徴を理解し、その指導方法・内容を選択・活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ科学に立脚したスポーツ・運動の指導が求められている。指導対象者ごとの特徴、指導環境の特徴、指導方法・内容の特徴、それぞれの理解を促し、ディスカッション、プレゼンテーションを活用して双方向の講義にする。プレゼンテーションの内容は学習支援システムの「授業内掲示板」に掲示して共有できるようにする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツ・運動の指導における留意点 1	・対象者のライフステージの理解 ・対象者のからだの特性の理解
2 回	スポーツ・運動の指導における留意点 2	スポーツ科学に立脚した指導の理解
3 回	指導対象者の理解（性別）	女性を指導する際の特徴の理解
4 回	指導対象者の理解（年齢）	幼少児を指導する際の特徴の理解
5 回	指導対象者の理解（年齢）	思春期生徒を指導する際の特徴の理解
6 回	指導対象者の理解（年齢）	中高年者を指導する際の特徴の理解
7 回	指導対象者の理解（体力レベル）1	脆弱者を指導する際の特徴の理解
8 回	指導対象者の理解（体力レベル）2	パラアスリートを指導する際の特徴の理解
9 回	指導対象者の理解（体力レベル）3	アスリートを対象とした指導の特徴の理解
10 回	指導環境の理解 1	自然環境の影響を理解する
11 回	指導環境の理解 2	人工環境の影響を理解する
12 回	指導環境の理解 3	社会環境の影響を理解する
13 回	指導方法・内容の特徴 1	性別とその指導方法・内容を理解する
14 回	指導方法・内容の特徴 2	年齢とその指導方法・内容を理解する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた対象者に関する先行研究を事前に読んで、内容をプレゼンする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

## 【参考書】

その都度参考書、先行研究を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

指導対象者を選択し、その指導に関するレポート（60%）、レポートのプレゼンテーション（40%）とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

バイオメカニクスに限らず、身体運動に関わる多くの分野の論文を輪読する

## 【学生が準備すべき機器他】

プレゼンのための PC、PPT

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

The purposes of this class are to learn the feature of physical construction and function on the sport training subjects and to learn the procedures/contents of the training for each subject. References are presented and discussed among students in the class in order to understand the feature and the training procedures/contents better.

HSS500I1

## スポーツバイオメカニクス特論

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツでみられる身体運動のバイオメカニクスの計測法を学び、それらを用いて身体運動を計測し、分析する。

## 【到達目標】

- ・計測法の原理を理解する。
- ・計測法の活用を理解する。
- ・身体運動の計測・分析計画を立てられるようになる。
- ・身体運動を計測・分析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ・バイオメカニクスの計測法を受講学生で分担し、それぞれその原理・活用を調べてプレゼンする。
- ・学んだ計測法を活用してスポーツでみられる身体運動を受講学生が選択し、計測・分析の計画を立てる。
- ・計画に基づいて実際に計測・分析し、フィードバックプレゼンをする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	・講義の進め方の説明 ・身体運動の計測法の紹介 ・参考図書を紹介	計測法を分担し、原理・計測・分析法の調べ方を指示する
2 回	映像による計測法	高速度ビデオの原理、それを用いた映像による身体運動の計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
3 回	Motion Capture 法	Motion Capture 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
4 回	ゴニオメータ法	ゴニオメータ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
5 回	GPS 法	GPS 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
6 回	超音波法、MRI 法	超音波法、MRI 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
7 回	フォースプラットフォーム法	フォースプラットフォームの原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
8 回	ストレインゲージ法	ストレインゲージ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
9 回	加速度計法	加速度計法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
10 回	筋電図法	筋電図法の原理、計測・分析法のプレゼンをしてもらい、補足説明により理解を促す
11 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（歩、走）	歩、走動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
12 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（跳）	歩、走動作の分析結果をフィードバックする。跳動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
13 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（投、打）	跳動作の分析結果をフィードバックする。投、打動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
14 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析のまとめ	投、打動作の分析結果をフィードバックする。計測・分析のまとめをする。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・割り当てられた計測法の原理、計測・分析法を準備学習として調べ、プレゼンの準備をする。
  - ・割り当てられた身体運動の計測・分析の計画を立てて、プレゼンの準備をする。
  - ・割り当てられて計測した身体運動を分析し、フィードバックの準備をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- ・「バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎」金子公有、福永哲夫編、杏林書院

**【参考書】**

- ・「スポーツバイオメカニクス」深代千之ほか編著、朝倉書店
- ・「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良、藤井範久、朝倉書店

**【成績評価の方法と基準】**

- ・身体運動の計測法のプレゼン60点
- ・身体運動の分析結果フィードバック40点

**【学生の意見等からの気づき】**

多様な分野の院生がいるので、講義開始時の説明をさらに理解しやすいものにする

**【学生が準備すべき機器他】**

プレゼン、分析、フィードバックのためのPC

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline and objectives】**

Principles and operations are introduced on several biomechanical machines, and then, human motions, especially sport motions, are measured and analyzed by using these biomechanical machines. And also, presentations and discussions are conducted on these analyses based on the references.

HSS500I1

## スポーツトレーニング学特論

NEMES ROLAND JANOS

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの基本となる体力要素のトレーニング方法としてストレングス・コンディショニングトレーニングを中心に、様々なトレーニング方法に対する身体の諸適応およびその機序を学習する。対象・目的に応じた適切なトレーニングプログラムを作成するための基礎理論や各種スポーツ現場への実践のための段階的プログラミングについても学ぶ。

## 【到達目標】

筋力、パワー、全身持久力、スピード、協調性、柔軟性などの各種トレーニング理論と方法論について理解、具体的なプログラミングを行うトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定およびプログラム立案方法を理解、実践する傷害の評価および指導対象の評価とあわせて対象者に適切な運動処方を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

運動処方・運動療法として行われるプログラムの立案と実施における原理・原則、エクササイズの特徴とその効果、各年代におけるトレーニングの注意点や個人差の要因等について、科学的根拠に基づき講義・議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業概要、基礎的知識の確認、原理・原則
2 回	コーチングとトレーニング	コーチング学、コーチング現場とトレーニング学の関係
3 回	トレーニングの基礎	様々な能力、スキルについて学ぶ
4 回	アスレチック的な能力の評価	測定方法や目的について学ぶ
5 回	ジュニア世代におけるフィジカルトレーニング	トレーニングにおける年代別、競技レベル別考え方
6 回	トレーニングモデルと漸増負荷性の原理	トレーニング負荷、様々な方法、順序について学ぶ
7 回	トレーニングのための準備	一般と専門的体力トレーニングについて学ぶ
8 回	効率的な運動運動のためのモーターパターン化	効率が良い運動パターンについて学ぶ
9 回	コアトレーニングについて	コアとコアの安定化と強化について学ぶ
10 回	トレーニングの基本期分け（ピリオダイゼーション）	ピリオダイゼーションにおける様々な考え方について学ぶ
11 回	柔軟性	柔軟性の最適化について学ぶ
12 回	球技のピリオダイゼーションにおける近代的な考え方	戦術的なピリオダイゼーション（タクトイカル）とブロックピリオダイゼーションについて学ぶ
13 回	技術・戦術トレーニング	トレーニングと技術や戦術の関係について学ぶ
14 回	試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学、生理学等基礎的知識の確認  
自身の経験から各種トレーニングを考察する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

## 【参考書】

トレーニングのための生理学的知識、市村出版  
競技力向上のトレーニング、大修館書店  
スポーツコーチング学、西村書店  
ストレングストレーニング&コンディショニング、ブックハウス・エイチディ  
トレーニングの科学的基礎、ブックハウス・エイチディ  
測定と評価 現場に活かすコンディショニングの科学、ブックハウス・エイチディ

High-Performance Training for Sports. Human Kinetics

## 【成績評価の方法と基準】

2回プレゼンテーション（1回 25%）、試験（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

The main goal of the course is to gain a general understanding of basic physiology and methodology in sports training science. Training and conditioning will be presented by a practical coaching point of view. Students are required to discuss and present related research papers.

HSS500I1

**発達発達学特論**

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

乳幼児期から高齢期までのヒトの一生にわたる心身の変化について理解し、各時期における健康課題を明らかにすることで、その解決方法を探る。特に学童期から中・高生期においては、学校教育の中での保健体育科目を通じた運動実践や健康づくりについて追求する。また、中年期以降は加齢・老化と身体活動との関係をもとに、生活習慣病予防について議論する。

**【到達目標】**

発達・発達、加齢に伴う身体変化について理解し、その視点から健康課題を考え、科学的根拠に基づいた健康教育や対策について検討できる能力を培う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

人の誕生から成長、成熟、老化といったライフステージに沿って、その過程を概観し、生涯における心や身体、健康や体力の変化の現象を明らかにする。授業は、講義による基本的知識の共有した上で、受講者が準備した各回のテーマに沿った話題について受講者全体で討論する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	授業の展開方法や注意点の説明。参考文献の紹介を実施する。
2 回	発達の見方・とらえ方	発達の概要を理解し、個人差や発達を支え・促す環境、健康との関係を概観する。
3 回	乳幼児期の発達発達	乳幼児期の発達発達に関する基礎的理論を理解する。
4 回	乳幼児期の発達発達	乳幼児期の、発達発達と健康課題との関係を議論する。
5 回	学童期の発達発達	学童期の発達発達に関する基礎的理論を理解する。
6 回	学童期の発達発達	学童期の、発達発達と健康課題との関係を議論する。
7 回	中・高生期の発達発達	中・高生期の発達発達に関する基礎的理論を理解する。
8 回	中・高生期の発達発達	中・高生期の、発達発達と健康課題との関係を議論する。
9 回	青年期（後期）の発達発達	青年期（後期）の発達発達に関する基礎的理論を理解する。
10 回	青年期（後期）の発達発達	青年期（後期）の、発達発達と健康課題との関係を議論する。
11 回	生活習慣病と身体活動	身体活動（生活活動・運動）に取り組むことで得られる効果について理解する。
12 回	壮年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が壮年期の心身に与える影響について議論する。
13 回	中年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が中年期の心身に与える影響について議論する。
14 回	高年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が高年期の心身に与える影響について議論する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。また、話題提供の担当となった回には、討論のテーマと必要に応じて資料を用意する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

**【参考書】**

その都度紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

抄録・プレゼンテーション 30 %

授業への参画状況 50 %

課題レポート 20 %

**【学生の意見等からの気づき】**

各受講者の研究テーマと関連を持たせるように、授業内容を工夫する。

**【Outline and objectives】**

Understanding the process of body development and functioning is important for school education and sports leaders. It is also important to understand the process from the growth period to the old age in the modern aging society.

In this lecture, we will understand the mental and physical changes over the life of humans from infancy to old age, and clarify the health issues at each time to find a solution. In particular, during the period from school age to high school, we will pursue exercise and health promotion through health and physical education subjects in school education. After middle age, we will discuss the prevention of lifestyle-related diseases based on the relationship between aging and aging and physical activity.

HSS500I1

## スポーツ教育学特論

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校体育を含むスポーツ教育の歴史・課題・展望

## 【到達目標】

学校体育を含むスポーツ教育に関する基礎的知識を修得し、今日の課題と今後の展望を考究する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

広義の「スポーツ」について、概念、歴史、文化的様相を捉えながらその教育的側面を掘出する。次いで、日本の学校体育および国際スポーツの様相を捉えながらその教育的側面を掘出する。さらに、現代のグローバル化したスポーツの様相を捉えながら日本の学校体育/地域スポーツの今日的課題と今後の展望について議論する。特に後半では受講生の参加による議論を促し、レポートを課す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本授業のスケジュール、ねらい、概要、評価等について受講生に説明する。
2 回	スポーツ・体育とは何か	スポーツと体育の概念について、これまでの日本での捉え方を含めて解説する。
3 回	スポーツの歴史①	未開～古代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
4 回	スポーツの歴史②	前近代～近代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
5 回	スポーツの歴史③	日本の江戸期における武術教育について論じる。
6 回	スポーツの歴史④	日本の明治期における体操・欧米スポーツの輸入と定着が学校体育にもたらした影響について論じる。
7 回	嘉納治五郎とクーベルタン	近代オリンピックの主導者・クーベルタンのスポーツ教育思想を、日本体育界の牽引者・嘉納治五郎の体育思想と関連づけながら論じる。
8 回	日本の体育とオリンピック	東京オリンピック（1964 年および幻に終わった 1940 年）について、日本の体育/スポーツ教育への影響という観点から論じる。
9 回	戦後日本の学校体育①	昭和の戦後における学校体育について、学習指導要領の変遷を中心に論じる。
10 回	戦後日本の学校体育②	現代におけるスポーツのグローバル化を捉え、主に学校体育に与える影響について論じる。
11 回	日本における体育授業の現状と課題①	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に学習内容・教材づくりの観点から論じる。
12 回	日本における体育授業の現状と課題②	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に教授法の観点から論じる。
13 回	日本における学校運動部活動の教育的意義および現状と課題	学校運動部活動の教育的意義について歴史的視点から講述し、さらに現状と問題点について地域スポーツのあり方と関連づけながら論じる。
14 回	学校体育/スポーツ教育における道徳教育の可能性	マナー、フェアプレイ、アンチ・ドーピング、責任学習など、学校体育/スポーツ教育が有する道徳教育としての可能性について論じる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションおよびレポート作成のための講義内容の復習と、自己の意見を補足するための文献資料の調査等。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

## 【参考書】

現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか（ミネルヴァ書房）、よくわかるスポーツ倫理学（ミネルヴァ書房）、体育の教材を創る（大修館書店）、等。

## 【成績評価の方法と基準】

ディスカッション等の参加状況（60%）、レポート（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も少人数制の利点として、各種のトピックについて一步深い議論を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

今日の学校体育/スポーツ教育は様々な課題や問題点を抱えているが、なぜそうなっているのか、改善するためには何が必要なのか、本授業でそれらを考える知力と見識を養いたい。

## 【Outline and objectives】

This class is for students wishing to consider why so many subjects in Physical Education/Sports Education have been materializing in the curriculum, and what is necessary to consider or improve in these subjects.

HSS500I1

**スポーツメンタルトレーニング演習**

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：多摩  
 配当年次：1～2 年次  
 備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

アスリートやスポーツチームのメンタルサポートに資する理論と方法の習得。

**【到達目標】**

1. アスリートが抱える心理的諸問題の改善に資するメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング等）の理論と方法を習得する。
2. チームビルディングに資するメンタルサポートの理論と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、まずスポーツフィールドで実践される種々のメンタルサポートや心理アセスメントの理論と方法に関する国内外の動向について概説する。次に、1) スポーツメンタルトレーニングならびにスポーツカウンセリングの諸技法の学習、2) 心理アセスメントの体験的学習に取り組む。また受講生は、当該領域にまつわる国内外の文献を精読し、その内容を抄録にまとめたうえで発表し、全体で討議する。なお、授業で取り組むレポートやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、他己紹介	学習目標、単位認定の方法、履修上の注意ならびにアスリートの心理支援について概説する。他己紹介を行う。
2	メンタルサポートの方法	アスリートのメンタルサポートをめぐる諸理論を概観する
3	心理アセスメント	心理アセスメントによる測定・評価について学ぶ
4	スポーツメンタルトレーニング	スポーツメンタルトレーニングをめぐる諸理論を概観する
5	スポーツカウンセリング	スポーツカウンセリングをめぐる諸理論を概観する
6	動機づけの理論と方法	動機づけに関する抄録発表および討議
7	目標設定の理論と方法	目標設定に関する抄録発表および討議
8	リラクゼーションの理論と方法	リラクゼーションに関する抄録発表および討議
9	認知療法の理論と方法	認知療法に関する抄録発表および討議
10	行動療法の理論と方法	行動療法に関する抄録発表および討議
11	事例研究 I	アスリートの実力発揮に関する事例研究
12	事例研究 II	アスリートの心理臨床に関する事例研究
13	事例研究 III	チームビルディングに関する事例研究
14	総括	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。
2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。
3. スポーツ場面や日常生活で感じたこと・気づいたことを日々記録することが望ましい。記録した内容が本授業の理解を深める手がかりとなります。
4. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて資料・文献等を配布します。

**【参考書】**

1. 中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016
2. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
3. 内田 直「スポーツカウンセリング入門」講談社 2011

**【成績評価の方法と基準】**

原則として全授業への出席を前提に、次の基準に従い総合評価します。

1. 授業への参画状況、リアクションペーパー：50 %。
2. 各種課題等の提出物：50 %。

※原則として、欠席 3 回までを評価の対象とします。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

**【学生の意見等からの気づき】**

1. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題を作成・提出するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

**【その他の重要事項】**

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. やむを得ず欠席する場合は、可能な限り事前にその旨を連絡してください。
3. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire the fundamental theory and methods to contribute to psychological support of athletes and sport teams.

HSS50011

**アスレティックトレーニング特別演習**

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スポーツにおける外傷・障害予防、運動機能評価に基づいた運動療法の実践方法について学習する。アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングの背景となるさらに国内外の研究論文の検討から、最新の研究成果や知見について理解するとともに、エクササイズ自体の実践方法を習得する。

**【到達目標】**

スポーツ外傷・障害に関する基本的な身体特性の評価方法、予防・改善のためのエクササイズについて学び、実際の研究計画を立てられるようになる。アスレティックリハビリテーションおよびストレングストレーニングプログラムを作成できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングに必要な解剖学的基礎知識（筋・腱・関節・神経等）の復習  
スポーツ外傷・障害に対する評価、スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンスアップのためのエクササイズに関する文献（論文）講読

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	文献（論文）購読について、機能解剖学知識の確認
2 回	スポーツ傷害予防	緊急対応、安全管理体制、アライメント、関節可動域、筋力評価、スペシャルテスト
3 回	アスレティックリハビリテーション	傷害評価、運動療法、リスク管理
4 回	上肢の評価	手・前腕・肘・肩関節の評価／講義
5 回	上肢の運動療法	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／講義
6 回	文献講読：上肢①	手・前腕・肘・肩関節の評価／文献（論文）購読
7 回	文献講読：上肢②	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／文献（論文）購読
8 回	体幹の評価	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／講義
9 回	体幹の運動療法	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／講義
10 回	文献講読：体幹①	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／文献（論文）購読
11 回	文献講読：体幹②	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／文献（論文）購読
12 回	下肢の評価	足・膝・股関節の評価／講義
13 回	下肢の運動療法	足・膝・股関節の運動療法／講義
14 回	文献講読：下肢およびまとめ	足・膝・股関節の評価／文献（論文）購読

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

機能解剖学・生理学の知識が必須である。  
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

講義の際に紹介する

**【参考書】**

臨床スポーツ医学編集委員会：スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版（文光堂）  
小林直行、成田崇矢、泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング（医歯薬出版）  
日本スポーツ協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（財団法人日本体育協会）  
広瀬統一他、アスレティックトレーニング学（文光堂）

**【成績評価の方法と基準】**

授業への取り組み状況（40%）、プレゼンテーション・レポートの取り組み状況（60%）

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度の反省から、発表に基づいた議論を演習の中心に置いた。そのため議論が活発になり、双方向性の授業が展開できたと考えている。この方法で続けていきたい。

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline and objectives】**

The purpose of the athletic training seminar is as follows, students study how to practice exercise therapy based on sports injury prevention and motor function evaluation. Students review domestic and international research papers and present the latest research results and findings

EDU50011

## 保健体育科教育法特別演習

鬼頭 英明、永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩  
 配当年次：1～2 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健体育科における授業実践力の養成

## 【到達目標】

保健体育科におけるよりよい授業を考究し、実践できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

保健体育科のよりよい授業実践に対する力量形成を図るため、中学校・高等学校や特別支援学校の現場におけるフィールドワークを行う。また、校内においては学部生に対するメンタリング実習や模擬授業を行い、ゲスト・ティーチャー（ベテラン教職経験者）の指導助言・評価を得て授業実践に対する反省的思考を深める。なお、原則としてすでに保健体育科教員免許を取得している大学院生を対象とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本授業の目標と方法に関する説明を行い、今後のスケジュールについて打ち合わせを行う。(担当：永木・鬼頭)
2 回	学校現場の観察①	近隣の中学校の体育授業を観察/補助し、気づいた点等をレポートする (担当：永木)。
3 回	学校現場の観察②	近隣の高等学校の体育授業を観察/補助し、気づいた点等をレポートする (担当：永木)。
4 回	学校現場の観察③	近隣の中学校の保健授業を観察/補助し、気づいた点等をレポートする (担当：鬼頭)。
5 回	学校現場の観察④	近隣の高等学校の保健授業を観察/補助し、気づいた点等をレポートする (担当：鬼頭)。
6 回	学校現場の観察⑤	特別支援学校 (中等部) の体育授業を観察/補助し、気づいた点をレポートする (担当：永木)。
7 回	学校現場の観察⑥	特別支援学校 (高等部) の体育授業を観察/補助し、気づいた点をレポートする (担当：永木)。
8 回	振り返り①	各種の学校における観察実習を振り返り、よい体育授業の在り方についてディスカッションする (担当：永木)。
9 回	振り返り②	各種の学校における観察実習を振り返り、よい保健授業の在り方についてディスカッションする (担当：鬼頭)。
10 回	模擬授業①	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした体育の模擬授業をグループ①が行い、ゲスト・ティーチャー (ベテラン教職経験者) の指導・評価を受ける (担当：永木)。
11 回	模擬授業②	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした体育の模擬授業をグループ②が行い、ゲスト・ティーチャー (ベテラン教職経験者) の指導・評価を受ける (担当：永木)。
12 回	模擬授業③	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした保健の模擬授業をグループ③が行い、ゲスト・ティーチャー (ベテラン教職経験者) の指導・評価を受ける (担当：鬼頭)。
13 回	模擬授業④	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした保健の模擬授業をグループ④が行い、ゲスト・ティーチャー (ベテラン教職経験者) の指導・評価を受ける (担当：鬼頭)。
14 回	まとめ	全体的な総括を行い、各自の今後の課題を探る。(担当：永木・鬼頭)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料・文献の収集、レポート作成、模擬授業づくりに対する準備。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

## 【参考書】

中学校学習指導要領解説・保健体育編 (平成 20 年版・29 年版)、高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編 (文部科学省)、中学保健体育 (学研)、最新高等保健体育 (大修館書店)、体育授業を観察評価する (明和出版)

## 【成績評価の方法と基準】

フィールドワーク参加状況 (50%)、模擬授業・プレゼンテーション (20%)、レポート (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

学外における授業観察を積極的に行い、学生の現場理解を深めたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This seminar is for students wishing to train in the practical skills necessary to facilitate Health and Physical Education classes.

OTR60011

## スポーツ健康学演習 I

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：1 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題設定能力を高め、自らの研究テーマであるアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を整理し明確にする。

## 【到達目標】

① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。② 上記に基づき、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する国内外の文献を検査し修士論文の研究手法、実践内容について理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、リハビリテーション・トレーニング法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、論文作成における関連知識と方法論を深く修得する

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	論文抄読の概要、各自の研究計画発表①
2 回	論文抄読 1	スポーツ外傷・障害予防・総論
3 回	論文抄読 2	スポーツ外傷・障害予防・各論
4 回	論文抄読 3	スポーツ外傷・障害評価・上肢
5 回	論文抄読 4	スポーツ外傷・障害評価・体幹
6 回	論文抄読 5	スポーツ外傷・障害評価・下肢
7 回	論文抄読 6	スポーツ外傷・障害予防・評価：まとめ
8 回	研究計画発表②	各自の研究計画発表②
9 回	論文抄読 7	アスレティックリハビリテーション・上肢
10 回	論文抄読 8	アスレティックリハビリテーション・体幹
11 回	論文抄読 9	アスレティックリハビリテーション・下肢
12 回	論文抄読 10	一般的物理療法
13 回	論文抄読 11	東洋医学的物理療法
14 回	プレゼンテーション方法	抄録、プレゼンテーションファイル、ポスター作製など

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究領域以外の研究にも積極的に触れる姿勢が望まれる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP  
 広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂

## 【参考書】

適宜紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

論文抄読と研究計画の進捗とのバランスをとりながら進めていきたい。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

Students are required to clarify their research topics by organizing related knowledge in the field of athletic training and sports medicine.

OTR60011

## スポーツ健康学演習 I

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：1 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のため、研究とは何かということを含んでいく。具体的には課題の設定と、問題を解決するための能力や方法を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

初学者として、必要な知識や能力の獲得。具体的には以下について修士論文作成に必要な水準の能力の獲得を目指す。  
 ・研究倫理の問題  
 ・研究の妥当性や信頼性の担保  
 ・適切な課題の設定  
 ・研究の価値（学術性・新規性）  
 ・適切な分析方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、研究者として必要な資質や能力を養うことを目的として進めていく。基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2 回	スポーツマネジメント領域の捉え方①	スポーツマネジメントとはどのような概念であり、学問として体系だっているのかについて解説する
3 回	スポーツマネジメント領域の捉え方②	スポーツマネジメントの独立性や新規性について理解を深める
4 回	スポーツマネジメントの実際①	スポーツマネジメント研究が現場でどのように用いられているのか事例を用いながら解説する
5 回	スポーツマネジメントの実際②	スポーツマネジメント研究における成果を現場にてどのように用いているのかについて解説する
6 回	スポーツマネジメントに関する研究課題①	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマについて解説する
7 回	スポーツマネジメントに関する研究課題②	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマ、特に近年の傾向について解説する
8 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る①	先行研究で扱っているデータや分析方法について検討する。
9 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る②	プロ・スポーツリーグやチームの定量的な情報を持ちて、経営的な課題や顧客の行動を検討する
10 回	課題に対する解決方法の検討および提案①	課題に対する適切な分析手法（単純集計、クロス集計、t 検定等）について検討する
11 回	課題に対する解決方法の検討と提案②	課題に対する適切な分析手法（回帰分析、多変量解析等）について検討する
12 回	要因とモデル	先行要因および結果要因を概念図と文章にて説明する
13 回	問題の所在	社会的、学術的な観点から問題の所在について検討する
14 回	研究の目的	何をどこまで明らかにするかについて検討する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の抄読など予習を必要とする内容が多いため、事前に文献を読む事と、資料をあらかじめ用意しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

## 【参考書】

研究テーマに関連する先行研究および文献

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート (30%) および授業への関与状況 (40%)、成果物の評価 (30%) など  
を踏まえ、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

## 【Outline and objectives】

This course is a seminar of sport management research. Students will select appropriate topics for their own master's theses, review the literature on their topics and identify significant gaps in previous research.

OTR6001I

## スポーツ健康学演習 I

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ②研究とは何か、研究計画はどのように組み立て、進めるのかについて、学校保健や健康教育の領域を題材として、理解を深める。

## 【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
- ②学校保健、健康教育の領域において、児童生徒学生における様々な現代的健康課題を踏まえ、研究テーマを設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

学校保健、健康教育の領域において、児童生徒学生にかかわる様々な健康課題があることを認識した上で、どのような先行研究がどのような方法で進められてきたかについて説明する。その上で、受講者が学校保健、健康教育に関する調査報告や研究論文を読み、それらがどのように構成されているのかを理解できるようにする。その都度、レポートまたはプレゼンテーションにより発表する。なお、研究テーマの質の向上を目指すため受講者間での積極的な意見交流を実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	学校保健、健康教育領域に関する概論	学校保健、健康教育領域における研究の概要について児童生徒学生の直面する健康課題を交えて紹介し、研究テーマに関する意見交換を行う。
2 回	研究テーマの意見交換	関心のある研究テーマについて意見交換を行い、その意義と実施可能性についてディスカッションする。
3 回	先行研究の検索法	研究テーマに即した文献の検索方法について指導する。
4 回	テーマと関連する先行研究の収集	研究テーマに関連する先行研究をもとに、論文構成を理解するとともに、方法、結果、考察について要約する。
5 回	テーマと関連する総説の読み合わせと課題の抽出	研究テーマに関連する総説の読み合わせにより研究課題の抽出と仮設設定の進め方について議論する。
6 回	様々な研究方法について理解を深める	研究の進め方、質的研究、量的研究について先行研究の論文を踏まえて理解を進める。
7 回	様々な分析方法について理解を深める	様々な分析方法、統計解析の進め方について、進めようとする研究テーマを踏まえ、先行研究をもとに理解を深める。
8 回	結果の書き方について理解を深める	論文における「結果」の記述について、進めようとする研究テーマを踏まえ、先行研究をもとに理解を深める。
9 回	考察の進め方について理解を深める。	考察の進め方、記述法について、進めようとする研究テーマを踏まえ、先行研究をもとに理解を深める。
10 回	研究テーマを抽出する。	進めようとする研究テーマを抽出し、研究計画の概要をまとめる。
11 回	研究テーマの目的と仮説設定を進める上での計画立案	研究テーマの目的及び仮説設定とともに、予備調査、本調査に向けての内容の検討を行う。
12 回	研究テーマの分析方法の検討	統計手法を含め、分析方法について適用の可能性について理解を深める。
13 回	研究計画で予測される仮説及び新規性の検討	先行研究と比較検討し、仮説と新規性の検討を行う。
14 回	研究方法の確立	調査内容から導き出される結果をもとに、仮説の立証が可能であるか意見交換の上、検討する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学校保健、健康教育について日頃から関心をもち、進めたい研究テーマを模索する。

**【テキスト（教科書）】**

文献や調査報告を適宜配付

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参画状況及びレポート（60%）、プレゼンテーション（40%）

**【学生の意見等からの気づき】**

新規科目のため特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is for students to heighten the problem setting ability and clarify own research questions, and to understand research process of this field through reading research papers for school health and health education.

OTR6001I

**スポーツ健康学演習Ⅱ**

木下 訓光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

- ① 研究（実験）技術（機器、調査手法、分析手法）の習得
- ② 調査・測定の実施

**【到達目標】**

研究実現に必要な技術（調査手法、機器操作、解析手法）について習得する。研究論文における「方法」セクションの枠組みとなる雛形としての草稿を完成させる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

学部ゼミに毎週出席をする。

ゼミの冒頭で【授業の概要と目的（何を学ぶか）】に沿って進捗をゼミ生および教員に報告し、都度指導を受ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	対象者の設定	研究対象者の具体的設定を行う。ヒトを対象として調査・実験を行うために要求される法的・倫理的要件を、対象者の年齢や背景に応じて具体的に確認する。設定された仮説の検証に必要な統計（検定）手法は何か、要求する検定力はどのように設定するか、について学習する。想定された検定力に応じて必要となる対象者数を算定する。
2	調査・実験方法の設定	仮説の検証に必要な分析機器・設備が必要となるか、具体的に設定していく。
3	調査・実験機器（1）	調査・実験に必要な分析機器・設備のメカニズムについて学習する。そのためには化学、物理学、数学などの基礎的理解が必須である。往々にしてこれらの理解がないまま「ただそこにある機械をマニュアル通りに使っているだけ」という研究者がいるが、そのような姿勢であるがゆえに、データそのものの信頼性が極めて低い研究となってしまうことも少なくない。そのような研究論文は審査・査読において厳しい評価を下される可能性があるため、測定機器の工学的基礎と測定値算出のメカニズムについて学ぶ。自らの研究データの質について理論的説明ができるよう最低限の理解をするための学習を行う。
4	調査・実験機器（2）	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。前回で機器類の工学的基礎およびその理論的基礎について学習したことを踏まえて、測定や計測の誤差について学ぶ。機器によって測定誤差は異なること、測定誤差の評価尺度には複数あることなどを理解する。このような理解のないまま研究を進めている場合も多いが、そのような研究論文は審査・査読の際に厳しく査定される可能性があることを理解し、自らの研究にどのような機器をどのような誤差と信頼性でもって活用できるか、適切に判断できるようにする。

5	調査・実験機器 (3)	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。この回では準備、整備、検定・校正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、研究者として最低限習得しておかなければならない技能を習得する。ほとんどの初学者は、このような機器の扱いに習熟していないばかりか、不適切な扱いをする事も多い。さらには実験室自体の取り扱いにも十分ではないことが多い。このようなことは研究を行う人間の姿勢として厳しくとがめられる行為であるだけでなく、得られたデータの信憑性も損なう行為である。いわば「信頼できる測定のお膳立て」ともいえる手順について徹底的に習熟する。	13	研究方法の論述 (2)	修士論文の「方法」セクションの草稿執筆を継続し進捗分を提出して議論、指導を受ける。初学者は方法セクションに書くべきでない内容を含めることがあるが、そのような論文は研究構造を損なうため、最終審査で著しく低い評価となる。このような事態を回避する上で「方法セクション」の書き方に習熟する。また統計解析の結果を正しく叙述できていないことも多い。統計解析の報告方法について、海外の学術ガイドラインに沿って学び、過不足なく適切に報告する方法について学習する。
6	分析手法の検討 (1)	測定データの分析に用いる統計解析手法について検討する。自らの研究の <b>delimitation</b> 、目的、仮説に沿った適切な手法は何かを検討する。初学者は、とかく明確に母集団を設定できていないにもかかわらずやみくもに <b>null hypothesis</b> による検定を行ったり、十分な根拠もなく思い付きで検証モデルを設定したりしがちであるが、このような姿勢は、完成した論文の妥当性そのものを著しく損なうため、検証すべき指標について慎重かつ厳正に議論を行い、適切な分析方法の設定とその理論的根拠を明確に述べるができるようにする。	14	研究方法の論述 (3)	これまでの学習を踏まえて修士論文の「方法」セクションに該当する草稿を完成させて提出し指導を受ける。
7	分析手法の検討 (2)	前回で測定データの分析に用いる統計解析に必要な基礎理論について学習・習得したうえで、これを実現するためにどのような解析 <b>modality</b> を用いるのが良いか検討する。統計解析ソフトはデータを入力すれば、明らかな方法論的問題があっても、何らかの結果を出力するため、自分の検証対象に沿った方法論を確定して解析手段を選択しなければならない。場合によっては統計ソフトウェアに頼らない分析も必要であり、これらを含んで学習する。データの分析に必要な統計解析ソフトやグラフ作成ソフト、数学的手法について学習する。ソフトウェアによって、同じ分析でも解析アルゴリズムがことなるため、出力結果に違いが生じるだけでなく、アルゴリズムに採用されている計算式もソフトによって異なる場合がある。解析にソフトウェアを用いる場合、 <b>SAS</b> 、 <b>R</b> 、 <b>SPSS</b> から選ぶ。またグラフ解析を必要とする場合、 <b>MS Excel</b> などの <b>Office</b> パッケージや <b>SPSS</b> では不十分であることも多い。 <b>SigmaPlot</b> や <b>Prism</b> を用いることを推奨するが、 <b>SigmaPlot</b> は研究室に用意があるので必要であればこれについても学ぶ。自らの分析に最も適切なものを選ぶように学習する。場合によってはこれらを複合的に用いて解析する必要があるので多面的に学習を行う。 <b>SAS</b> と <b>R</b> については、前者は <b>SAS University Edition</b> 、後者は <b>R</b> の各パッケージをダウンロードして利用する。 <b>SPSS</b> はライセンス式であり、本学情報センターを介して利用を申し込みを行う。			【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 指定した文献の事前精読、課題に対する資料作成。 測定データの分析。  【テキスト (教科書)】 必要な資料があれば都度指定する。  【参考書】 特になし。 指導教員からの直接の学びこそが最善・最良の「教科書」と心得て、指導を得る機会を自ら失すことの無いよう研鑽すること。  【成績評価の方法と基準】 具体的な研究方法が設定できることが必須である。 ①対象者およびその数が適切に設定できる (25%) ②研究室、研究機器の適切な使用方法の習得 (25%) ③解析手法の理解と習得 (25%) ④研究方法の論述 (25%) 以上の4項目を評定し、合計得点によって総合評価を行う。 【授業計画】における各回の準備、進捗の遅延が重畳する場合は厳格に評価し、場合によっては大きな減点対象とする (最終評価を2段階下げる。例：最終評価がA-ならBになる、最終評価がCならDになるなど)。  【学生の意見等からの気づき】 特に改善を検討すべき意見なし。  【学生が準備すべき機器他】 ①リモート授業になる可能性があるため、高速インターネット回線に接続できる環境 ②ビデオ会議システムを円滑に行うためのコンピューター (スマートフォンは不可) ③統計解析を行うためのソフトウェアを利用できる環境確保 (SPSS または SAS)  【その他の重要事項】 準備、進捗は厳格に予定通り行うこと。 研究活動の実現を最優先にして計画をたて、進捗させること。 【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師 (日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医) が指導を行う。 【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、本研究科で行われる「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。 授業の展開によって、若干の変更があり得る。  【Outline and objectives】 A student has to acquire technical skills for research: learning measurement devices and analytical methods. A student has to conduct measurement for research.
8	分析手法の習得 (1)	データの分析に必要な統計解析ソフトやグラフ作成ソフト、数学的手法について学習する。ソフトウェアによって、同じ分析でも解析アルゴリズムがことなるため、出力結果に違いが生じるだけでなく、アルゴリズムに採用されている計算式もソフトによって異なる場合がある。解析にソフトウェアを用いる場合、 <b>SAS</b> 、 <b>R</b> 、 <b>SPSS</b> から選ぶ。またグラフ解析を必要とする場合、 <b>MS Excel</b> などの <b>Office</b> パッケージや <b>SPSS</b> では不十分であることも多い。 <b>SigmaPlot</b> や <b>Prism</b> を用いることを推奨するが、 <b>SigmaPlot</b> は研究室に用意があるので必要であればこれについても学ぶ。自らの分析に最も適切なものを選ぶように学習する。場合によってはこれらを複合的に用いて解析する必要があるので多面的に学習を行う。 <b>SAS</b> と <b>R</b> については、前者は <b>SAS University Edition</b> 、後者は <b>R</b> の各パッケージをダウンロードして利用する。 <b>SPSS</b> はライセンス式であり、本学情報センターを介して利用を申し込みを行う。			
9	分析手法の習得 (2)	データの分析に必要な統計解析ソフトやグラフ作成ソフト、数学的手法について学習する。前回で学習し選定した各統計解析ソフトを使って実際に分析データを分析してみる。出力された結果についてディスカッションを行う。			
10	分析の実践 (1)	この時点までに得た実際の測定データのすべてを総括し発表を行い議論する。実際に論文として報告するデータだけでなく、様々な角度から分析を行うことが必要である。			
11	分析の実践 (2)	前回の分析総括を踏まえて、研究の <b>delimitation</b> 、 <b>research question</b> 、目的、仮説に沿った分析を取捨選択する。初学者の多くは恣意的に、自分の仮説に沿った分析結果のみを選ぶバイアスに陥りやすいため、この点についても厳正に試問を行い確認をする。			
12	研究方法の論述 (1)	修士論文の「方法」セクションの草稿執筆を提出して議論、指導を受ける。			

OTR60011

## スポーツ健康学演習 I

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
配当年次：1 年次  
備考（履修条件等）：  
実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文ではフィジカルあるいはスキルのトレーニングを題材とすることを指すので、そのために必要となる知識と手技、特にトレーニング科学およびスポーツバイオメカニクスの知識と手技を習得する。

### 【到達目標】

- ① トレーニング科学あるいはスポーツバイオメカニクスに関する知識を深める
- ② 題材とするフィジカルあるいはスキルのトレーニングの研究デザインを作成する
- ③ トレーニング効果を測定する手技を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究課題およびそれを解決するための研究デザインを検討する。その中で必要となる知識を深め、効果を測定する手技を習得する。研究デザイン、手技の取得については、学生からのプレゼンテーションを受けて教員が逐次フィードバックする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1 回	研究倫理の理解	研究を開始するにあたって必要となる研究倫理について検討し、理解する
2 回	研究領域の理解	トレーニング科学とスポーツバイオメカニクスの研究の中での研究の位置づけを理解する
3 回	研究課題と卒業研究との関連づけ	各自の卒業研究をプレゼンし、今後の研究課題を検討する
4 回	運動・スポーツに関する背景からみた研究課題の適切性	研究課題に対する背景を検討し、課題の適切性を検討する
5 回	研究課題の新規性の検討	研究課題に関する先行研究を渉猟し、新規性の観点から課題を明確にする
6 回	研究目的までの研究遂行の論理性と仮説の設定	研究目的までのストーリーを作成し、仮説を設定する
7 回	研究対象の確認	課題を解決するために必要な対象を確認する
8 回	測定法の調査	量的か質的かを含めて必要となる測定法を調査する
9 回	測定法の適切性	これまでの測定法も含めて、選択した測定法が適切であるかを検討する
10 回	測定法の熟知と適切性	調査・選択した測定法が課題解決に適切であるかを検討し、測定法を熟知する
11 回	測定データ指標の設定	測定によって得られたデータから課題解決に向けた指標を明確にする
12 回	データ処理のための統計手法の理解	課題解決に向けた統計手法を検討、理解する
13 回	研究の「緒言」、「方法」の改めでの確認	当初の課題との対比で、ここまでの「緒言」、「方法」を改めて確認する
14 回	研究デザインのプレゼンテーション	作成した研究デザインをプレゼンテーションする

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究課題を検討し、先行研究を精読し、測定法を調査する。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文の「緒言」の完成度（60%）、プレゼンテーション（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けて、個別の課題に対応する。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC、データ分析のためのソフトウェア（エクセルなど）、プレゼンテーションのためのソフトウェア（パワーポイントなど）

### 【Outline and objectives】

This class asks the students to learn knowledges and techniques on science in sports training and sports biomechanics.

OTR60011

## スポーツ健康学演習 I

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：1 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
2. 修士論文の概要を理解し、自分の研究テーマの基礎となる概念や理論について学びを深めるとともに、先行研究で明らかにされていない研究課題を特定する。

## 【到達目標】

- 1 年次の秋学期に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
1. 修士論文の概要および求められる水準について十分に理解する。
2. スポーツマネジメントに関する様々な理論について学習し、それらを説明できる。
3. 現場の課題に対して、学習した理論を根拠に解決策を提案することができる。
4. 自分の研究テーマにおいて、どの概念や理論を応用することができるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業の目的は二つある。一つ目は大学院において 2 年間に渡り受講する講義、演習、実習を通じて獲得する知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文の概要を理解することである。二つ目は、スポーツマネジメント領域の研究として修士論文を完成させるために必要となる様々な概念や理論について学習し、ゆくゆくは受講生の研究テーマにそれらの理論を応用できるようにするための基礎的理解を深める。授業では様々な重要概念や理論をどのように自身の研究に活用できるのかについてディスカッションを行う。受講者は毎回事前に配布される資料を読み、議論に参加する準備を行う必要がある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2 回	主な先行研究の報告	研究テーマに関して特に重要と思われる文献（3 本程度）を読み、その結果を報告する。
3 回	主な先行研究に関する議論	第 2 週で読んだ 3 つの論文の弱点を特定し、その改善方法について議論する。
4 回	文献の整理	先行研究の問題を特定するため、15 本～20 本程度の文献を検索し、それぞれの特徴（概念化、測定方法、研究環境）をまとめる。
5 回	概念的研究のレビュー	先行研究（概念的）をレビューした結果を文章で説明する。
6 回	実証研究のレビュー	先行研究（実証研究）をレビューした結果を文章で説明する。
7 回	概念的アプローチ	自分の興味に最も適した概念的アプローチを特定する。
8 回	研究の新規性	研究として新規性のある先行要因および結果要因を特定する。
9 回	概念図の作成	自身の研究の基礎となる概念図のドラフトを作成する。
10 回	要因間の関係性	先行要因および結果要因を文章で説明する。
11 回	問題の所在	先行研究の問題の所在を明らかにし、記述する。
12 回	研究の目的	修士論文で何をどこまで明らかにするか（研究目的）を設定する。
13 回	研究の重要性	研究の重要性を実践的視点と学術的視点の両方から記述する。
14 回	概念規定	自身の研究における主要概念を定義する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。必要な資料を事前に読むとともに、疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

## 【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書。

## 【成績評価の方法と基準】

先行研究のレビュー：30 点  
 概念図の作成：20 点  
 先行研究の問題の特定：10 点  
 研究目的の設定：10 点  
 研究の重要性の特定：10 点  
 重要概念の定義：20 点  
 合計：100 点

## 【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができています。

80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。

40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。

40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

## 【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course is a seminar of sport management research. Students will select appropriate topics for their own master's theses, review the literature on their topics and identify significant gaps in previous research.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅱ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ②修士論文作成に必要なアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を修得する。

## 【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ②スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する国内外の文献を討議し修士論文の研究計画の完成・予備実験等を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、リハビリテーション・トレーニング法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、研究計画を完成させるとともに予備実験等の実践を含め方法論を磨く

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の発表、ディスカッション
2 回	論文抄読/ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害予防）、研究計画検討
3 回	論文抄読/ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害の評価）、研究計画検討
4 回	論文抄読/ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション1）、研究計画検討
5 回	論文抄読/ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション2）、研究計画検討
6 回	論文抄読/ディスカッション	論文抄読（運動器に対する物理療法）、研究計画検討
7 回	予演/ディスカッション	プレゼンテーション方法・実践、研究計画の検討・討議
8 回	研究計画発表（練習）	各自の研究計画発表・ディスカッション
9 回	ディスカッション/論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
10 回	ディスカッション/予備実験	表面筋電図計測/研究計画検討
11 回	ディスカッション/論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
12 回	ディスカッション/予備実験	三次元動作分析機器計測/研究計画検討
13 回	ディスカッション/論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
14 回	研究計画発表会	修士論文研究計画完成・発表会

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP  
 広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂

## 【参考書】

適宜紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでのように学生が積極的にかかわることで本授業を活性化していきたい。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

There are two purposes of this seminar. First, through preliminary experiments and preliminary surveys, comprehensively enhance the ability to study such as data collection and analysis. Second, to make a research plan for master's thesis.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅱ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメント研究にて用いられる概念や、課題について理解するとともに、修士論文作成に資する研究方法や分析の手法などについて理解する。

## 【到達目標】

修士論文作成において、ベースとなる以下の事柄について理解し、設定しうる能力の獲得を目標とする

- ・ 研究の目的、方法を設定できる。
- ・ 合理的な根拠をもって仮説の設定ができる。
- ・ 正しい標本の抽出や測定尺度の設定ができる。
- ・ 適切な分析方法を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本講義は、テーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。事前・事後学習の内容 各回の予習・復習には約90分～120分かかると想定されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ
2 回	文献の整理	スポーツマネジメント研究における主なテーマや課題について整理するため、15～20 本程度の文献を検索し、それぞれについてまとめる
3 回	先行研究のレビュー①	レビュー結果について報告する（概念化）
4 回	先行研究のレビュー②	レビュー結果について報告する（測定方法）
5 回	先行研究のレビュー③	レビュー結果について報告する（研究環境）
6 回	研究の新規性・重要性	新規性のある要因の設定や要因間の関係について整理し、学術的・実践的な重要性についてまとめる
7 回	研究の目的・リサーチエスチョン	研究の目的とリサーチエスチョンを設定する。
8 回	仮説の設定①	自らの論文にて設定する仮説導出部分について検討する
9 回	仮説の設定②	設定する仮説の合理的な根拠となる理論についてまとめる
10 回	研究の方法	自らの研究を進めるうえで用いる手法（質的、量的、混合型）について検討する
11 回	研究方法の妥当性①	標本抽出の方法や、分析の手法、要因と項目の妥当性などについて検討する
12 回	研究方法の妥当性②	統計的な妥当性、信頼性だけでなく、内容的な妥当性や研究対象に対する尺度の設定や分析における妥当性についても検討する
13 回	記述統計	実際のデータを用いて分析を行い、結果を記述する
14 回	t 検定・分散分析	さらに、収取したデータを用いて実際の分析を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題をまとめ、授業内で発表および議論できる状態にしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

## 【成績評価の方法と基準】

授業への関与状況 (30%)、成果物の評価 (40%)、提出物や議論の内容 (30%) などを踏まえ、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course is a sport management seminar. Its' objectives are to (1) develop a proposal for their master's theses, (2) conduct a pilot study, and (3) design the main study based on the results of the pilot study. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the methodology that is useful for their master's theses.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅱ

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。

## 【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 具体的な研究計画を踏まえ、事前の予備調査を実施、分析するとともに、修士論文の全体構想を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

設定した研究テーマと研究実施計画を踏まえ、具体的に予備調査を実施し、結果の解析を進めることにより信頼性、妥当性の検証及び本調査に向けての基礎資料を得るようにする。  
本調査に向けての研究計画の立案と方法についてディスカッションにより内容の改善を図り、予備調査の結果を分析して改善の工夫を講じる。受講者間の意見交換により、他者からの異なる視点も視野に入れられるようにする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマを包含する領域の総説の検討	予備調査実施の手順及びその内容について再度考え方を整理する。また、倫理的配慮について指導する。
2 回	先行研究における質的アプローチの視点を踏まえた先行研究の進め方の検討	質的アプローチの模索のため、先行研究における質的アプローチの方法について意見交換し、進めようとする研究への導入について検討する。
3 回	先行研究における量的アプローチの研究手法と結果の課題の検討	量的アプローチの模索のため、先行研究における量的アプローチの方策について意見交換し、進めようとする研究への導入について検討する。
4 回	予備調査の実施方法の検討	先行研究を踏まえ、研究計画を進めるための予備調査の実施について検討する。
5 回	予備調査の手続き及び実施	予備調査を進めるために必要な手続きの確認と調査の実施
6 回	予備調査の結果解析	実施した予備調査の結果の解析を進め、課題の抽出を行う。
7 回	研究と関連する先行研究の収集と内容の検討	研究と関連する先行研究を収集し、内容の検討により相違点、や課題の洗い出しを行う。
8 回	研究計画とは異なる視点での先行研究の分析方法及び結果の比較検討	研究計画とは異なる視点での先行研究の分析方法及び結果について、予備調査の分析結果と照らし合わせ、進めようとする研究への適用の可能性について検討する。
9 回	先行研究における論理構成の検討	先行研究において新規性の抽出の進め方について意見交換する。
10 回	様々な先行研究の分析手法について検討する。	先行研究で採用する分析手法について意見交換する。
11 回	関連する先行研究との相違点や課題について検討する。	研究テーマと先行研究との相違点、論理構成や予備調査の分析結果を踏まえ、研究計画の改善のための方策について意見交換する。
12 回	研究計画全体の整合性及び実施しようとする研究アプローチの検討	研究計画全体の整合性、実施可能な研究アプローチについて検討し、あわせて調査対象についても検討を進める。
13 回	修士論文の全体構想を踏まえた研究計画の作成	これまでの議論の積み重ねから導き出した考え方を踏まえ、修士論文の全体構想及び研究計画の試案を作成する。
14 回	修士論文の全体構想を踏まえた研究計画の確定	先行研究や予備調査の結果を踏まえ、修士論文の全体構想及び研究計画について協議し確定する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに関連する文献について検索を行い、研究領域に関する知識を高めるとともに、研究の進め方、計画立案についても理解しておくようにする。

## 【テキスト（教科書）】

文献や調査報告を適宜配布

## 【参考書】

必要に応じて紹介するが、統計に関する書籍は読んでおくこと。

## 【成績評価の方法と基準】

論文作成に向けた進捗状況及びレポート（60%）、プレゼンテーション（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to heighten the research ability the data collection and analytical methods of this field through the research plan and preliminary study and survey.

OTR60011

## スポーツ健康学演習 I

木下 訓光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

以下の手続きに沿って研究のデザインと倫理的・科学的妥当性について学ぶ。

- ① Clinical question の発見
- ② 関連先行研究の総括
- ③ Research question の設定
- ④ Research question の distillation
- ⑤ 仮説立論
- ⑥ 研究目的の決定
- ⑦ 研究方法の設定

## 【到達目標】

- ① 科学的に妥当な研究を論理的にデザインして計画することができる。
- ② 研究論文導入部（「背景」や「緒言」に相当する）の草稿を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

学部ゼミに毎週出席をする。

ゼミの冒頭で【授業の概要と目的（何を学ぶか）】に沿って進捗をゼミ生および教員に報告し、都度指導を受ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Clinical question の発見	Clinical question を決めて報告・議論し、指導を受ける。個人の好奇心を満たすだけのようなもの、学位取得のためだけに設定されるようものになっていないか検証。
2	関連先行研究の総括 (1)	Clinical question に沿った先行研究論文の選定・報告し議論する。主として Pubmed と CiNii を用いて先行研究を確認する。ただしスポーツ関連の研究については、国内論文のみでは、研究の十分な科学的根拠・妥当性を担保することは不可能であるため、国内論文のみを選定することは認めない。初期段階においては 50 編程度の論文を選ぶこと。またその 8 割は英語論文であることを必須とする。すべてについて abstract に目を通すこと。言うまでもない事であるが、「教科書」の類、インターネット上の記事などは「先行研究」とはみなさない。一般書（文庫、新書などの類）は論文とみなさない。また初学者が陥る過ちの代表として、学会抄録を「先行研究」として挙げることもあるが、これは誤った姿勢であり、これを認めない。
3	関連先行研究の総括 (2)	先行研究論文を読破しながら、自らの Clinical question が想定する研究の delimitation を明確にし、これに沿った形で初期段階で選定した先行研究論文の取捨選択を行う。Impact factor, Cite score, predatory journal の実態などに習熟し、Scopus を活用する。この時点で特に優れた先行研究論文を複数選択し、精読・研究すること。科学的妥当性の低い先行研究は排除できるようにする。実際の修士論文で参考文献のリストに挙げる研究論文はすべて読破することが当然の義務であることを理解して準備すること（読みもしないで参照することは研究倫理にもとる行為である）。

4	関連先行研究の総括 (3)	選定した先行研究論文における問題点を抽出・報告して議論し指導を受ける。この時点では、先行研究の methodology、特にデータ解析方法、統計解析について検証し、誤った分析方法を用いている、あるいは不適切な統計解析を行っているような科学的妥当性の低い論文を批判的に分析する。このような方法論的問題を含有する先行研究論文は意外に多く、journal の査読者や編集者の力量不足にかかわると思われる。したがってなぜそのような論文が出版されているかについて考察することは、自らの論文を査読者目線で検証し、厳正な査読を想定してなお評価されるものに仕上げていく上で必要な訓練であると感じて学習する。
5	関連先行研究の総括 (4)	総括した先行研究における問題点を抽出・報告して議論し指導を受ける。前回同様、特に先行研究のデータ解析方法、統計解析について検証し、誤った分析方法を用いている、不適切な統計解析を行っているような科学的妥当性の低い論文を発見する。このような論文は多いが、誤った統計解析や解析結果の適切な解釈が出来ない場合は、完成した修士論文自体が客観性や妥当性を欠くという致命的結果につながる。前回はこのような論文が出版される背景について学ぶことを主眼としたが、今回は実際に各論文における仮説に対応した delimitation、母集団、サンプル、仮説検定方法の妥当性、null hypothesis の適切な設定、結果の解釈の適不適を理解できるようにする。
6	Research question の設定	これまでの先行研究の「研究・総括」によって初期の clinical question は十分 distillation されたはずである。その上でより高度で delimitation が明確であり、simple かつ具体的な Research question を設定するための議論を行う。
7	Research question の distillation	Research question の倫理的・科学的妥当性検証と最適化（question の探求によって得られる成果が一般化可能なものか否か）を行い、最終的に決定する。端的に言えば「その研究を行って一体何の役に立つのか」という質問に明確に回答できなければならない。行う意義を見出すことが難しい研究は例えば学位取得のためであってもこれを認めない。
8	仮説立論	仮説をたてるための議論を行い、適切で強力な仮説を設定する。すでに十分かつ批判的な先行研究の総括が出来ており、洗練された research question が出来上がっていれば、仮説の立論には苦労しないものであるが、多くの院生は、仮説を支えるための医学、生理学、生化学、解剖学、さらには物理学、化学などの理解が不十分であることが多いため、時に中学・高校水準の学習に立ち返って学ぶことも必要である。この時点で仮説の十分な科学的根拠について明確に説明できるよう基礎についても学ぶ。
9	研究目的の決定	仮説検証に沿って適切な研究目的を設定する。倫理的・科学的妥当性について検証する。
10	研究方法の設定	仮説検証に必要な方法を適切に設定する。往々にして院生は先行研究の方法を「真似る」だけであるが、これは極めて問題のある姿勢である。すでに先行研究の methodology について批判的総括を済ませているわけであるから、それを踏まえて自らの研究の research question および delimitation に沿った適切な方法を設定しなければならない。さらには方法の倫理的・科学的妥当性についても検証する。

- 11 研究論文導入部の論述 (1) 研究論文導入部について議論、指導を受ける。少なくともこれまでの作業を通じて、研究目的と仮説に至るまでを理路整然と説明できるようになっているはずである。したがってこの回では草稿作成の前に導入部をプレゼンテーションし、指導教員よりその科学的妥当性と根拠について口頭試問を受ける。さらにこれをパラグラフライティングの手法に則って明確に叙述できるように学ぶ。
- 12 研究論文導入部の論述 (2) 前回の指導を踏まえて研究論文導入部の草稿執筆を提出して議論、指導を受ける。十分なパラグラフライティングが出来ているかを確認する。なお日本語を母語としているにもかかわらず、しばしば適切な論理的表現をするために必要な日本語力が十分でないこともある。母語を日本語とせず、論理的な日本語の文章を執筆する上で **handicap** がある場合は、学内におけるサポートシステムなどをフルに活用すること。また日本語以外の執筆では、英語を用いることを認めるが、十分な英語力をもって学術的記載ができることがその条件である。
- 13 研究論文導入部の論述 (3) 研究論文導入部の草稿執筆を継続し進捗分を提出して議論、指導を受ける。この回では草稿の論理性、客観性、科学的妥当性について口頭試問を行う。第 8 回で指摘したような科学的基礎の不十分な文章になっていないか、徹底的に検証を行う。
- 14 研究論文導入部の論述 (4) 研究論文導入部の草稿を完成させ完成稿を提出し指導を受ける。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

データベースを用いて先行研究の探索、文献精読、報告のための資料作り。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。  
指導教員からの直接の学びこそが最善・最良の「教科書」と心得て、指導を得る機会を自ら失すことの無いよう研鑽すること。

**【参考書】**

必要な資料があれば都度指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

- ① **Clinical question** を発見できたか (10%)
- ② 関連先行研究を適切にかつ網羅的に総括できたか (10%)
- ③ 適切な **Research question** を設定できたか (10%)
- ④ 適切な仮説を設定できたか (10%)
- ⑤ 適切な研究目的を決定できたか (10%)
- ⑥ 適切な研究方法を設定できたか (10%)
- ⑦ 研究目的および研究方法は倫理的・科学的妥当性があるか (10%)
- ⑧ 研究論文導入部の草稿を完成させることができたか (10%)
- ⑨ 指導教員・ゼミ生を前に毎回適切に進捗を報告できたか (10%)
- ⑩ 指導教員・ゼミ生を前に毎回適切に議論できたか (10%)

【授業計画】における各回の準備、進捗の遅延が重畳する場合は厳格に評価し、場合によっては大きな減点対象とする（最終評価を 2 段階下げる。例：最終評価が A- なら B になる、最終評価が C なら D になるなど）。

**【学生の意見等からの気づき】**

特に改善を検討すべき意見なし。

**【学生が準備すべき機器他】**

- ① リモート授業になる可能性があるため、高速インターネット回線に接続できる環境
- ② ビデオ会議システムを円滑に行うためのコンピューター（スマートフォンは不可）
- ③ 統計解析を行うためのソフトウェアを利用できる環境確保（SPSS または SAS）

**【その他の重要事項】**

準備、進捗は厳格に予定通り行うこと。

研究活動の実現を最優先にして計画をたて、進捗させること。

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が指導を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、本研究科で行われる「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。授業の展開によって、若干の変更があり得る。

**【Outline and objectives】**

A student has to study how to design a scientific research in accordance with:

- 1) finding a specific clinical question
- 2) reviewing relevant researches in scientific literatures
- 3) to formulate an initial research question
- 4) to distillate the research question
- 5) forming a research hypothesis
- 6) to finalize the aim of the research
- 7) to determine methods to realize the aim

OTR6001I

**スポーツ健康学演習 II**

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文ではフィジカルあるいはスキルのトレーニングを題材とすることを目指すので、そのために必要となるトレーニング科学およびスポーツバイオメカニクスの手技を習得する。

**【到達目標】**

- ① 研究デザインに基づいて、研究に必要な測定法の手技をさらに深める
- ② 手技の習得から、研究方法を作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

各自の研究デザインに基づいて、トライアルとなる測定を実施し、測定法の習得が確実となっていることを確かめる。その中で分析法、結果の解釈も検討する。手技の習得、研究方法の作成に関しては、学生からのプレゼンテーションを受けて教員からその内容に関して逐次フィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1 回	測定法の原理の理解	測定法をより深く調べ、原理を確認する
2 回	測定する手続きの理解	マニュアルを含め、測定をするための手続きを理解する
3 回	測定するための準備	消耗品、事前の機器立ち上げ、キャリブレーションなど、準備を理解し、実施する
4 回	トライアルデータを取得する意義	実際の研究遂行にとって、トライアルデータを取得する意義を理解する
5 回	トライアルデータを取得するためのデザイン	データ収集の対象をどの範囲にするか、どのような動作条件で取得するかを検討する
6 回	トライアルデータの収集	実際にトライアルデータを収集、保存する
7 回	トライアルデータの処理	トライアルデータを処理し、統計手法を施す
8 回	トライアルデータの表示、記述	処理したデータを記述する
9 回	トライアルデータのプレゼンテーション	対象者、測定条件、処理法を含めてプレゼンテーションする
10 回	測定対象の記述	測定の意義、実際の説明、同意を得たことの記述、倫理審査を受けたことの記述のしかたを理解し、実際に記述する
11 回	測定条件、測定風景の記述	測定条件、測定風景の記述のしかたを理解し、実際に作成する
12 回	統計処理方法の記述	統計処理方法の記述のしかたを理解する
13 回	「研究方法」の執筆	先行研究の作法にならない、「研究方法」を執筆する
14 回	研究方法のまとめとプレゼンテーション	「研究方法」を完成させ、プレゼンテーションする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自必要となる測定法をさらに調査する。

トライアルデータを分析する。

「研究方法」を作成する。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

必要となる参考書をその都度紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文の「諸言」から「方法」までの完成度（60%）、プレゼンテーション（40%）

**【学生の意見等からの気づき】**

論文執筆に向けて、個別の課題に対応する

**【学生が準備すべき機器他】**

PC、データ分析のためのソフトウェア（エクセルなど）、プレゼンテーションのためのソフトウェア（パワーポイントなど）

**【Outline and objectives】**

This class asks the students to learn knowledges and techniques on science in sports training and sports biomechanics.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅱ

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究の構想および計画を練ることで、データ収集や分析などの研究方法に関する力を総合的に高める。
2. スポーツマネジメント領域の修士論文の作成に必要な研究方法論を十分に理解する。

## 【到達目標】

修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請、収集したデータの分析を実際に行うことのできる研究力を獲得する。

1. 修士論文の目的、リサーチエスション、仮説を導出し、設定できる。
2. 修士論文の研究の種類と目的に応じて適切な標本抽出方法を選択できる。
3. 修士論文においてにおいて扱う尺度の種類と特徴を理解する。
4. 記述統計に加え、仮説検証に必要な推計統計（t 検定、ANOVA、MANOVA、回帰分析）を用いてデータを分析できる。
5. 多変量解析の確率的因子分析と構造方程式モデリングを用いて、心理的尺度の構成概念妥当性を検証するとともに、仮説に基づいて要因間の関係性を分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学期の前半は修士論文の遂行において求められる目的、リサーチエスション、仮説を適切に設定するとともに、研究目的を達成するために必要とされる研究方法論（尺度の作成、サンプリング、尺度の信頼性および妥当性の検証、仮説の検証）について学習し、倫理申請に対応できるようになる。学期の後半は統計分析に焦点を合わせ、課題に取り組みながら、基礎的な記述統計および推計統計に加え、発展的な多変量解析を学ぶ。演習では修士論文に関連する理論、方法、統計分析についてディスカッションを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本演習の目的および概要について理解する。併せて、春学期にレビューした先行研究を改めて考察し、その問題点を明らかにするとともに、修士論文の目的とリサーチエスションを適切に設定する。
2 回	研究の重要性	研究の重要性を実践的視点と学術的視点の両方から説明する。
3 回	概念的枠組み	修士論文で用いる全要因を定義し、概念規定を明確にする。
4 回	理論的枠組み	研究の分析枠組みとなる概念図に具体的な要因をあてはめ、完成させる。また、仮説検証の理論的根拠となる合理的な説明（理論）をいくつか特定し、修士論文への応用について検討する。
5 回	仮説の導出：関係性の説明	要因間の関係性を支持する理論をいくつか用いることで、仮説の導出根拠を書き上げる。
6 回	方法：研究のデザインとサンプリング	修士論文の目的を達成するための調査デザインを決定するとともに、調査における母集団とそれを代表する標本を設定し、そのための標本抽出方法を選択する。
7 回	方法：調査項目	研究で用いる要因を測定するための尺度を設定する。
8 回	t 検定と分散分析	t 検定と分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
9 回	分散分析と交互作用	分散分析の交互作用効果とその検定方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。

10 回	多変量分散分析	多変量分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
11 回	確率的因子分析の基礎	心理的要因の構成概念妥当性を検証するために必要な確率的因子分析の内容と実施方法について理解を深める。
12 回	確率的因子分析による構成概念妥当性の検証	二次的データを用いて確率的因子分析を行い、心理的尺度の収束の妥当性と弁別的妥当性を検証する。
13 回	構造方程式モデリングの基礎	複雑な関係性に関する仮説検証において有効な構造方程式モデリングの内容と実施方法について理解を深める。
14 回	構造方程式モデリングによる関係性の分析	二次的データを用いて構造方程式モデリングの検証を行い、要因間の関係性を分析する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題に取り組みとともに、そこでの疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

## 【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書。

## 【成績評価の方法と基準】

理論に基づく仮説の設定：20 点

統計課題 1（記述統計）：20 点

統計課題 2（基礎的な推計統計）：20 点

統計課題 3（確率的因子分析）：20 点

統計課題 4（構造方程式モデリング）：20 点

## 【仮説の評価基準】

20 点：適切な理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

15 点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

10 点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

5 点：理論を用いて現象を説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

## 【統計課題の評価基準】

20 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から合理的な説明を加えられている。

15 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から説明を行っている。

10 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行っている。

5 点：授業の内容を踏まえて分析を実施している。

## 【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

## 【その他の重要事項】

演習で身に付けた知識とスキルを実際に用いて倫理申請を済ませてもらいます。

## 【Outline and objectives】

This course is a sport management seminar. Its' objectives are to (1) develop a proposal for their master's theses, (2) conduct a pilot study, and (3) design the main study based on the results of the pilot study. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the methodology that is useful for their master's theses.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅲ

安藤 正志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② 各関節部位に発生する運動器疾患（スポーツ傷害を含む）について理解し、その部位の機能解剖の理解を深めると同時に対処方法を考案しながら修士論文のテーマを定め研究を実行する。

## 【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 修士論文の計画を立て実行する。また同時に各関節に発生する（特に脊椎）主な運動器疾患を理解でき機能解剖について理解を深め触診ができ、既に修得された他の部位に関しては後輩に指導しながら理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義、実技および文献など調査と発表

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	修士論文計画発表会	修士論文の計画を発表する
2 回	腰部体幹 1（調査方法の確認）	この部位に多発する主な疾患を調べる
3 回	腰部体幹 2（調査文献の解釈と報告）	この部位に多発する主な疾患を調べまとめたことを発表する
4 回	腰部の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
5 回	中下部頸椎 1（調査方法の確認）	この部位に多発する主な疾患を調べる
6 回	中下部頸椎 2（調査文献の解釈と報告）	この部位に多発する主な疾患を調べまとめたことを発表する
7 回	中下部頸椎の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
8 回	上部頸椎 1（調査方法の確認）	この部位に多発する主な疾患を調べる
9 回	上部頸椎 2（調査文献の解釈と報告）	この部位に多発する主な疾患を調べまとめたことを発表する
10 回	上部頸椎の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
11 回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる
12 回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査する
13 回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる
14 回	まとめ	お互いの情報を交換し議論することで既知と未知の領域を確認する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学術大会への参加

## 【テキスト（教科書）】

特に定めず

## 【参考書】

からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱ ・ カバンディ機能解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなど ・ 関連した学術論文

## 【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

新規開校科目のため、該当なし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター・パソコンなどその都度指示

## 【その他の重要事項】

学術大会へ積極的に参加し科学者としての言動や振る舞いを学ぶ

## 【Outline and objectives】

- (1) Comprehensively enhance the applied ability to concretely execute the research plan necessary for writing a master's thesis.
- (2) Understand the locomotor disorders (including sports injuries) that occur in each joint part, deepen the understanding of the functional anatomy of that part, and at the same time, set the theme of the master's thesis and carry out research while devising coping methods.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅲ

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② アスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究の方法論から修士論文を作成する

## 【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する研究方法より、各自の研究計画に基づき研究を実践する。
- ③ 関連分野における学会発表を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究計画に基づき実験等を実践し、議論を行う

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の振り返り、ディスカッション
2 回	研究倫理	研究倫理について、科学的不正行為の7領域について
3 回	研究実践/実験計画	各自の研究計画に基づいた実験計画立案・記載方法について
4 回	研究実践/実験方法	各自の研究計画に基づいた実験方法の確認と検証
5 回	研究実践/参加者と器具及び手順	各自の研究計画に基づいた参加者、使用器具、手順の確認
6 回	研究実践/分析方法	各自の研究計画に基づいた実験結果の分析方法の検討
7 回	中間プレゼンテーション	中間発表に至る過程での振り返りとまとめ、各自のプレゼンテーション、研究方法の再検討
8 回	研究実践/論文抄読1/統計概念の理解	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、統計学の基礎について
9 回	研究実践/論文抄読2/変数間の関係	実験等研究実践報告、
10 回	研究実践/論文抄読3/偏相関・重回帰	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、偏相関・重回帰について
11 回	研究実践/論文抄読4/差の統計的検定	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、t検定と分散分析
12 回	研究実践/論文抄読5/ノンパラメトリック法	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、ノンパラメトリック検定について
13 回	中間発表・予演	各自のプレゼンテーション・ディスカッション
14 回	中間発表会	各自の研究の中間発表

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法. NAP

## 【参考書】

広瀬統一他、アスレティックトレーニング学. 文光堂  
 他、適宜紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

学生と双方向のやり取りの機会をより増やし、学生自身が積極的にかかわることによって本演習をより活性化したい。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

There are two purposes of the seminar. First, to perform experiments to concretely execute the research plan necessary for master thesis preparation. Second, to create a master's thesis from the methodology of athletic training and/or sports medicine research.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅲ

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては修士論文について「方法」の手順に従ってデータを収集し、「結果」の分析および信頼性・妥当性の検討を適切に行うことを目的とします。

## 【到達目標】

本演習の到達目標は、調査の仕様を確定させ、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集することと、収集したデータから得られた結果を適切な統計手法を用いて分析し、まとめることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
第 2 回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第 3 回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第 4 回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第 5 回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
第 6 回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1 章）の研究目的や研究の意義が、方法（4 章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第 7 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
第 8 回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
第 9 回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
第 10 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）	推計統計を用いて仮説を検証する。
第 11 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第 12 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
第 13 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第 14 回	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

## 【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

## 【成績評価の方法と基準】

データ収集：20 点  
 記述統計：20 点  
 尺度の信頼性および妥当性：20 点  
 仮説検証（関係性）：20 点  
 仮説検証（調整変数）：20 点

## 【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

## 【Outline and objectives】

Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅲ

高見 京太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② 進行する修士論文研究を、研究仮説や予想した結果との検証を行い、研究の修正や追加等を検討する。

## 【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 「修士論文計画発表会」において得られた助言等をもとに、研究していくための応用力を身につける。
- ③ 緒言と方法の記述に取り掛かり、目的に沿った実験を施行し、データ収集を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

研究計画に従って研究を遂行しながら、各専門の国内外における研究の動向やトピックスの紹介と検討を行い、研究論文作成に向けた緒言、方法の作成、質疑応答への準備などを通じて、研究者としての能力を総合的に高めてゆく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	修士論文・課題研究論文の進行状況の確認と質疑①論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
2	修士論文・課題研究論文の進行状況の確認と質疑②	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
3	修士論文・課題研究論文の進行状況と、それに関連する最新の研究論文レビュー③	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
4	修士論文・課題研究論文の進行状況と、それに関連する最新の研究論文レビュー④	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
5	研究論文作成における「緒言」の作成：文献や資料の通読と評価、総説作成による文献の集約①	緒言の構成を作成
6	研究論文作成における「緒言」の作成：文献や資料の通読と評価、総説作成による文献の集約②	研究の意義・重要性の整理、仮説の提示
7	研究論文作成における「緒言」の作成：文献や資料の通読と評価、総説作成による文献の集約③	参考文献のデータベース化
8	研究論文作成における「方法」の作成：実験方法とデータ収集に関する説明①	実験デザインの整理
9	研究論文作成における「方法」の作成：実験方法とデータ収集に関する説明②	サンプルサイズと統計処理の計画
10	研究論文作成における「方法」の作成：実験方法とデータ収集に関する説明③	実験施行のタイムテーブル

11	研究論文作成における「結果」の作成：実験データの統計処理、結果の記述とデータの図表化①	統計解析の実施
12	研究論文作成における「結果」の作成：実験データの統計処理、結果の記述とデータの図表化②	結果の提示
13	修士論文中間発表会の準備①	口頭発表のアウトラインと原稿作成
14	修士論文中間発表会の準備②	発表資料の作成、質疑応答の準備

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジメ・資料作成、および質疑内容の復習をしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

## 【参考書】

必要に応じて提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

1 対 1 での指導のため、問題があったとしてもその都度、解決できる。

## 【Outline and objectives】

- ① Comprehensively enhance the applied ability to execute the research plan necessary for creating the master's thesis.
- ② Verify the hypothesis of the master's thesis research and the obtained results, and consider corrections and additions.

OTR600I1

## スポーツ健康学演習Ⅲ

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：  
 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学に関する修士論文の作成に向けて  
 これまでの「緒言」、「方法」を受けて「結果」を書き上げ、「考察」を検討する。

## 【到達目標】

修士論文作成に向けて、「結果」を書き上げ、「考察」を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

修士論文の「結果」までの作成に向けて、結果をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する。方法を改めたならば、「結果」を再構築する。その上で、「緒言」から「結果」までをプレゼンテーションする。さらに、「結果」に基づいた「考察」の検討まで至る。「結果」と「考察」の内容について、逐次フィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	MCの結果のディスカッション	MCによって取得した「結果」をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する
2 回	VTRの「結果」のディスカッション	VTRによって取得した「結果」をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する
3 回	GPSの「結果」のディスカッション	GPSによって取得した「結果」をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する
4 回	「結果」についてのディスカッション	院生ごとに「結果」をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する
5 回	「結果」の再構築	「方法」を再検討した院生について「結果」を再構築する
6 回	MCによる論文の結果までのプレゼンテーション	MCによる論文の「緒言」から「結果」までをプレゼンテーションする
7 回	VTRによる論文の結果までのプレゼンテーション	VTRによる論文の「緒言」から「結果」までをプレゼンする
8 回	GPSによる論文の結果までのプレゼンテーション	GPSによる論文の「緒言」から「結果」までをプレゼンする
9 回	再検討「結果」の報告	再検討した「結果」について改めてプレゼンし、検討する
10 回	「緒言」から「結果」までの検討	院生ごとに「緒言」から「結果」までをプレゼンし、全体を通して「結果」を検討する
11 回	MCによる論文の考察の検討	MCによる論文の「結果」に基づいた「考察」を検討する
12 回	VTRによる論文の考察の検討	VTRによる論文の「結果」に基づいた「考察」を検討する
13 回	GPSによる論文の考察の検討	GPSによる論文の「結果」に基づいた「考察」を検討する
14 回	考察についての検討	「結果」に基づいた「考察」を全体を見通して検討する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜紹介する。

## 【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

## 【参考書】

その都度紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文の「緒言」から「結果」までの完成度（60%）、プレゼンテーション（20%）、授業への参画状況（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

## 【学生が準備すべき機器他】

PCおよびプレゼンソフト

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

The purpose of this class is to write up the results and consider the discussion of masters thesis.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅲ

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文は「序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論」の7章立てで進める。この授業では第4章の「方法」の手順に従ってデータを収集し、第5章の「結果」の分析を適切に行うことが目的である。

## 【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりである：

1. 調査票を確定させるとともに、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集する。
2. 収集したデータを入力するとともに、結果を適切な統計手法を用いて分析し、第5章の「結果」を原稿としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
第2回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第3回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第4回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第5回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
第6回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1章）の研究目的や研究の意義が、方法（4章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第7回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
第8回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
第9回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
第10回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の分析	推計統計を用いて仮説を検証する。
第11回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第12回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の分析	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
第13回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第14回	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

## 【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

## 【成績評価の方法と基準】

調査計画の作成および対応する本文の執筆：20点  
 データ収集および対応する本文の執筆：20点  
 記述統計および対応する本文の執筆：20点  
 尺度の信頼性および妥当性の検証と対応する本文の執筆：20点  
 仮説検証と対応する本文の執筆：20点

## 【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

- 100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。  
 80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。  
 60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。  
 40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。  
 20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

## 【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

## 【その他の重要事項】

本演習では修士論文のデータ収集を完了する必要があります。

## 【Outline and objectives】

Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study.

OTR6001I

## スポーツ健康学演習Ⅳ

安藤 正志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。  
 ②士論文を完成し発表する

## 【到達目標】

- ① 研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。  
 ② 実験などから得たデータを処理し、修士論文を完成し、発表する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

実験などから得たデータを指導されながら処理する方法を学び、数回の校正を通して修士論文を完成し要約したものを発表する

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	データ解析法	研究をまとめるための統計学を学ぶ
2 回	修士論文の校正	現在完成している論文を個人指導
3 回	発表用文章の校正	問題となっている点を明確にし個人指導を行う
4 回	修士論文中間発表	中間発表会を行う
5 回	論文修正（大項目）	大きな論文の流れを確認し、修正点があれば個人指導を行う
6 回	論文修正（中項目）	それぞれの章ごとに問題点があるかを検討し、個人指導を行う
7 回	論文修正（大項目修正）	論文の流れや大項目のチェックを行い、個人指導を行う
8 回	論文修正（詳細修正）	論文の中項目、小項目をチェックし、完成度を高めるための個人指導を行う
9 回	学会参加	関連学会への参加
10 回	論文修正（指摘事項の確認）	他の指導者からの指摘事項を確認し、修正の必要があるかを検討し、個人指導を行う
11 回	論文修正（1 回目目のチェック）	前回検討した箇所が修正できているかをチェックし、個人指導を行う
12 回	論文修正（書式など提出様になっているかをチェックする）	提出様に修正されているかをチェックし、個人指導を行う
13 回	論文提出	完成した修士論文を提出する
14 回	学会用スライドと原稿作成	関連学会参加準備

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の収集

## 【テキスト（教科書）】

特に定めず

## 【参考書】

関連した科学論文

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

## 【学生が準備すべき機器他】

心電図モニター・呼気ガス分析装置の使用準備

## 【その他の重要事項】

関連学会で成果を発表する

## 【Outline and objectives】

- ① Improve the ability to document and disseminate the research necessary for writing a master's thesis.  
 ② Complete and publish the master's thesis

OTR6001I

## スポーツ健康学演習Ⅳ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩  
 配当年次：2 年次  
 備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。

## 【到達目標】

- ①引き続き、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究を実践する。  
 ②研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。  
 ③関連分野における学会発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究実践結果に基づき議論を行うとともに、修士論文を完成させる

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	これまでの各自の研究の振り返り、ディスカッション
2 回	研究実践/方法論の振り返り	実験等自身の行ってきた研究方法の振り返り
3 回	研究実践/結果のまとめ	実験等自身の行ってきた研究の結果報告
4 回	研究実践/結果に基づいた考察	自身の行ってきた研究の結果に基づいて考察する
5 回	研究実践/考察（外傷・障害予防の観点）	自身の行ってきた研究について外傷・障害予防の観点から考察する
6 回	研究実践/考察（運動機能評価の観点）	自身の行ってきた研究について運動機能評価の観点から考察する
7 回	学会発表予演およびディスカッション	自身の行ってきた研究のプレゼンテーションおよびディスカッション
8 回	学会発表	関連各種学会で研究発表を行う
9 回	研究実践/考察（アスレティックトレーニング全般含む）	学会発表で得られた知見を踏まえてさらに考察を深める
10 回	研究実践/考察の完成	自身の研究の考察までを文章として完成させる。
11 回	修士論文の完成（仮）	予備審査提出用の修士論文を完成させる
12 回	査読後の修士論文チェック	予備審査を踏まえて、修士論文を推敲する
13 回	修士論文の完成および最終発表予演	修士論文を完成させるとともに審査会用のプレゼンテーションの予演を行う
14 回	最終発表会	修士論文の最終発表を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP

## 【参考書】

広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂、2019  
 他、適宜紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

学生と双方向のやり取りの機会を増やし、学生自身が積極的にかかわること本演習をより活性化したい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

There are two purposes of the seminar. First, to create a master's thesis from the introduction to the conclusion. Second, to prepare for final presentation and master's thesis review board.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究をまとめ、その成果を発信する能力を身に付けること、研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げることを目的とする。

【到達目標】

本講義では結果が示唆する内容についてまとめ、考察部分を書き上げること、主・副指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまでの学習を基に、修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
第 2 回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
第 3 回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
第 4 回	考察（調整変数の影響）	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を考察し、研究環境やグループ間の違いを説明するとともに、結果が示す学術的貢献についても記述する。
第 5 回	考察（棄却された仮説）	仮説どおりにならなかった結果や予期しなかった結果について、何故そのような事態になったのか慎重に考察する。
第 6 回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
第 7 回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
第 8 回	研究の目的、結果、考察つながり	研究を通じて目的がどの程度達成されたかどうかを確認し、論理性に問題があれば修正する。
第 9 回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
第 10 回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
第 11 回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の 7 章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
第 12 回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
第 13 回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。

第14回 論文審査への対応方法 各自の修士論文に対して与えられる指  
(原稿の修正) 摘や批判を想定するとともに、それら  
への適切な対応方法について十分に理  
解し、実際の対応に役立てる。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

#### 【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

#### 【成績評価の方法と基準】

考察（心理的尺度）：10点  
考察（仮説検証）：10点  
考察（予期せぬ結果）：10点  
考察（学術的貢献）：10点  
考察（実践的貢献）：10点  
考察（研究の限界と今後の展望）：10点  
結論（目的の達成度）：10点  
文章力：10点  
書式、体裁、参考文献、巻末資料：10点  
全体を通しての完成度：10点  
合計：100点

#### 【評価基準】

それぞれの観点を以下の基準に従って評価する：

10点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。

8点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性がある。

6点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性がある。

4点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげている。

2点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業では論理性に注意し、履修者がより深く考えるように進めていきます。

#### 【Outline and objectives】

The purposes of this course are to (1) develop skills to present the results of a research study and (2) write a master's thesis that is worthy of being considered as a scientific paper in the field of sport management.

OTR6001I

## スポーツ健康学演習IV

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
- ②修士論文研究で得られたデータや分析法を精査し、修士論文完成させる。

#### 【到達目標】

- ①研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ②研究成果を口頭発表および質疑応答が的確にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

結果ならびに考察を記述し、また研究発表や質疑応答の準備を行うことで研究の展開を行える力を身につけられるように指導する。また院生相互による事例検討、各人の研究内容のプレゼンテーション、ディスカッションをおこなうことにより、自らの研究論文に関わる知見を高める。成績評価については、演習での発表、レポートを含む日常点による。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	修士論文中間発表会の準備④	口頭発表リハーサル
2	修士論文中間発表会	スライドを用いた口頭発表
3	研究論文作成における「結果」の作成：実験データの統計処理、結果の記述とデータの図表化③	図表を用いたデータの視覚化
4	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括①	実験結果のまとめ
5	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括②	考察の記述方法
6	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括③	過去データとの比較
7	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括④	考察のまとめ
8	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括⑤	追加実験に関する検討
9	研究論文の研究発表と質疑応答の準備①	口頭発表のアウトライン
10	研究論文の研究発表と質疑応答の準備②	制限時間に合わせた発表原稿の作成
11	研究論文の研究発表と質疑応答の準備③	配布資料の作成
12	研究論文の研究発表と質疑応答の準備④	質疑応答の準備
13	研究論文の研究発表と質疑応答の準備⑤	リハーサル
14	全体発表会	スライドやポスターを用いた口頭発表

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジュメ・資料作成、および質疑内容の復習をしておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

#### 【参考書】

必要に応じて、その都度紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

**【学生の意見等からの気づき】**

1対1での指導のため、問題があったとしてもその都度、解決できる。

**【Outline and objectives】**

- ① Improve the ability to document and disseminate research necessary for creating a master's thesis.
- ② Complete the master's thesis by carefully examining the data and analysis methods obtained in the master's thesis research.

OTR6001I

**スポーツ健康学演習IV**

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学に関する修士論文を完成させ、プレゼンテーションする力を高める。

**【到達目標】**

修士論文の「考察」を深め、全体を完成させる。さらに学会発表に備えてプレゼンテーションスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

修士論文の「考察」をまとめ、結語と要旨を作成し、必要な補足をする。また論文全体についてディスカッションし、プレゼンテーションもする。さらに、論文の投稿先を検討し、投稿規定に合わせた修正をする。途中で逐次内容のフィードバックをする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1回	MC論文の「考察」のまとめ	MC論文の「考察」をまとめる
2回	VTR論文の「考察」のまとめ	VTR論文の「考察」をまとめる
3回	GPS論文の「考察」のまとめ	GPS論文の「考察」をまとめる
4回	「考察」のまとめ	全体を通して「考察」をまとめる
5回	MC論文の「結語」と「要旨」の作成	MC論文の「結語」と「要旨」を作成し、必要な補足をする
6回	VTR論文の「結語」と「要旨」の作成	VTR論文の「結語」と「要旨」を作成し、必要な補足をする
7回	GPS論文の「結語」と「要旨」の作成	GPS論文の「結語」と「要旨」を作成し、必要な補足をする
8回	「結語」と「要旨」の作成	全体を通して「結語」と「要旨」を検討し、必要な補足をする
9回	MC論文の発表	MC論文をプレゼンし、ディスカッションする
10回	VTR論文の発表	VTR論文をプレゼンし、ディスカッションする
11回	GPS論文の発表	GPS論文をプレゼンし、ディスカッションする
12回	MC論文のポスター作成と投稿準備	MC論文のポスターを作成し、発表練習する。加えて論文投稿の準備をする
13回	VTR論文のポスター作成と投稿準備	VTR論文のポスターを作成し、発表練習する。加えて論文投稿の準備をする
14回	GPS論文のポスター作成と投稿準備	GPS論文のポスターを作成し、発表練習する。加えて論文投稿の準備をする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

適宜指示する。

**【テキスト（教科書）】**

その都度紹介する。

**【参考書】**

その都度紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

**【学生の意見等からの気づき】**

新規開校科目のため、該当なし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**[Outline and objectives]**

The purpose of this class is to complete the masters thesis and to improve the presentation skill.

OTR60011

## スポーツ健康学演習Ⅳ

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究を実施した成果を発信する能力を身に付ける。
2. 各自の研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げる。

## 【到達目標】

履修者は本演習を通じて以下の目標に到達する：

1. 第 5 章の結果が意味する内容、学術的貢献、実践的提案、研究の限界、今後の展望などに関する考察（第 6 章）を書き上げる。
2. 指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

大学院における講義、演習、実習などを通して得た知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
第 2 回	結果（記述統計、心理的尺度、因子間相関）	標本の基本属性の集計に加え、心理的尺度の因子分析を行って合成信頼性、平均分散抽出、因子間相関を報告し、これらの結果を確定させる。
第 3 回	結果（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を分析し、結果を確定させる。
第 4 回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
第 5 回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
第 6 回	考察（棄却された仮説）	仮説と一致しない結果や予期せぬ結果について、何故そのようなことになったのか慎重に考察する。
第 7 回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
第 8 回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
第 9 回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
第 10 回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
第 11 回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の 7 章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
第 12 回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
第 13 回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。

第 14 回 論文審査への対応方法（原稿の修正）

各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

## 【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書。

## 【成績評価の方法と基準】

考察（心理的尺度）：10 点  
 考察（仮説検証）：10 点  
 考察（予期せぬ結果）：10 点  
 考察（学術的貢献）：10 点  
 考察（実践的貢献）：10 点  
 考察（研究の限界と今後の展望）：10 点  
 結論（目的の達成度）：10 点  
 文章力：10 点  
 書式、体裁、参考文献、巻末資料：10 点  
 全体を通しての完成度：10 点  
 合計：100 点

## 【評価基準】

それぞれの観点以下の基準に従って評価する：

- 10 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。
- 8 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性と論理性がある。
- 6 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性がある。
- 4 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげている。
- 2 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

## 【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

## 【その他の重要事項】

本演習では修士論文を完成し、提出します。初稿の完成は 11 月 30 日とし、12 月 1 日から副指導教員による初稿の添削を受けてもらいます。

## 【Outline and objectives】

The purposes of this course are to (1) develop skills to present the results of a research study and (2) write a master's thesis that is worthy of being considered as a scientific paper in the field of sport management.

